





概要	．．．	2
会長・副会長挨拶	．．．	2
歴代会長・副会長一覧	．．．	4
役員・会員名簿	．．．	5
会員異動一覧	．．．	8
AJMC組織図	．．．	10
委員長・WG座長一覧	．．．	11
活動報告	．．．	12
令和7年度 委員会・WG等活動報告一覧	．．．	12
令和7年度 4月理事会	．．．	15
令和7年度 5月定例社員総会	．．．	18
令和7年度 11月理事会	．．．	22
委員会・WG活動内容	．．．	24
要望・声明・提言等	．．．	46
懇談会・意見交換会・講演会等	．．．	59
医学教育等関係業務功労者表彰式	．．．	66
記者会見・プレスリリース	．．．	68
会員だより	．．．	70
Vol.50 昭和医科大学	．．．	70
Vol.51 順天堂大学	．．．	72
Vol.52 関西医科大学	．．．	74
Vol.53 近畿大学	．．．	76
事務局だより	．．．	78



## 会長挨拶

昭和医科大学病院 病院長

相良 博典

全国医学部長病院長会議（AJMC）は、全国の医学部長・医科大学長および大学病院長を会員とする我が国唯一の団体です。医育機関に共通する教育・研究・診療における諸課題を協議し、相互の理解を深めるとともに、意見の統一を図り、我が国の医学および医療の改善向上に資することを目的として活動しております。

2024年4月に開始された医師の時間外労働の上限規制（医師の働き方改革）から2年が経過いたしました。この間、各大学病院では、持続可能な医療提供体制の構築に向けた懸命な努力を続けてまいりました。しかし、改革を完遂させながら質の高い医療を維持するには、多大な財政基盤と現場への支援が不可欠であることを改めて再認識しております。

こうした中、令和8年度診療報酬改定においては、物価高騰や賃金引上げへの対応に加え、特定機能病院入院基本料の評価の見直しなど、高度急性期機能を担う大学病院の役割が改めて評価されました。

特に、特定機能病院には「高度な医療の提供」「高度な医療技術の開発・評価」「高度な医療に関する研修」という本来の使命に加え、地域医療の最後の砦としての「広域診療機能」や「医育機能」が強く期待されています。

しかしながら、これら評価の拡充は、あくまで持続可能な医療へ向けた「延命」の一步に過ぎません。国民の健康と福祉を担う全国の医学部・大学病院が、次世代を担う人材の教育に加え、未来の礎たる研究を強力に推進しつつ、診療体制の一層の充実を図る使命を全うするには、依然として解決すべき課題が山積しています。

また、新たな地域医療構想への移行期において、大学病院がどのように専門性を発揮し、地域の中核として機能分化と連携を進めていくのかについては、不断の議論が必要です。人材の確保や診療機能の維持に向けた適切なリソース配分について、AJMCとして今後も力強く要望を続けてまいります。

日本の医療が直面する課題を「強み」に変えていくためには、何を次代に引き継ぐべきかを見極める国民的な議論が不可欠です。議論の過程において、AJMCの多様性は大きな力になると信じています。皆様の英知を結集し、政府や関係機関と情報交換を重ね、課題に対する実効性のある解決策を模索してまいります。

国民の皆さまのご理解とご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 副会長挨拶

大阪公立大学 医学部長

鶴田 大輔

令和7年5月より副会長を拝命しております大阪公立大学の鶴田でございます。全国82医学部を擁するAJMCは、医学教育、医療の質向上、医学研究の発展を支える中核的組織として、社会に対する重要な責務を担っております。本年度も相良会長をお支えし、会員校の先生方とともに、現下の課題に真摯に向き合っております。

とりわけ本年度、大学病院を取り巻く経営環境は一層厳しさを増しております。物価・人件費の高騰、診療報酬制度の制約の中で、持続可能な経営基盤をいかに構築するかは喫緊の課題です。同時に、医師の働き方改革への対応は待ったなしの状況にあり、臨床現場での医師の実働時間はむしろ増加傾向にあります。さらにJACMEによる医学教育分野別評価への継続的対応も求められ、教育に割く時間と労力は確実に増大しています。

その結果、研究に充てる時間の確保が困難となり、大学病院が本来担うべき「診療・教育・研究」の三位一体のバランスが揺らぎつつある現状があります。国際競争力を維持し、次世代の医学研究を育てるためにも、この構造的課題にAJMCとして組織的に向き合い、必要な制度的支援や財政的措置を国に提言していくことが不可欠です。

医療を取り巻く環境が大きく変化する今こそ、全国の医学部・大学病院が連携し、知恵を結集し、社会に対して明確なメッセージを発信することが求められています。副会長として微力ながらその責務を果たす所存です。今後ともご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 概要

## 歴代会長・副会長一覧

任 期	会 長		副 会 長	
	大 学	氏 名	大 学	氏 名
42.10 ~ 43.5	東 京 大 学	豊川 行平	東 京 大 学	上田 英雄
43.5 ~ 44.5	順 天 堂 大 学	懸田 克躬	慶 應 義 塾 大 学	牛場 大蔵
44.5 ~ 45.5	東 京 医 科 歯 科 大 学	落合 京一郎 (~45.4)	東 京 医 科 大 学	小嶋 理一
45.5 ~ 46.5	順 天 堂 大 学	懸田 克躬	千 葉 大 学	相磯 和嘉
46.5 ~ 47.5	千 葉 大 学	松本 胖	日 本 医 科 大 学	斉藤 湊
47.5 ~ 48.5	日 本 大 学	永澤 滋	東 京 大 学	中井 準之助
48.5 ~ 49.5	東 京 大 学	高安 久雄	東 京 慈 恵 会 医 科 大 学	南 武
49.5 ~ 50.5	慶 應 義 塾 大 学	三辺 謙	千 葉 大 学	香月 秀雄
50.5 ~ 51.5	千 葉 大 学	香月 秀雄	日 本 大 学	萩原 忠文
51.5 ~ 52.5	東 京 慈 恵 会 医 科 大 学	名取 礼二	東 京 医 科 歯 科 大 学	島 蘭 安雄
52.5 ~ 52.7	東 京 医 科 歯 科 大 学	吉田 久己	東 京 女 子 医 科 大 学	千谷 七郎
52.10 ~ 53.5	東 京 大 学	吉川 政二	東 京 女 子 医 科 大 学	千志田 圭三
53.5 ~ 54.5	日 本 大 学	小林 茂三郎	群 馬 大 学	志田 圭三
54.5 ~ 55.5	東 京 医 科 歯 科 大 学	加納 六郎	日 本 医 科 大 学	伊藤 忠厚
55.5 ~ 56.5	昭 和 大 学	上條 一也	横 浜 市 立 大 学	福嶋 幸吉
56.5 ~ 57.5	千 葉 大 学	井出 源四郎	自 治 医 科 大 学	松本 清一
57.5 ~ 58.5	慶 應 義 塾 大 学	倉田 正一	東 京 医 科 歯 科 大 学	渡辺 勲
58.5 ~ 59.5	東 京 大 学	三島 濟一	日 本 医 科 大 学	伊藤 忠厚
59.5 ~ 60.5	東 京 女 子 医 科 大 学	吉岡 守正	群 馬 大 学	泉 雄 勝
60.5 ~ 61.5	筑 波 大 学	阿南 功一	昭 和 大 学	石井 淳一
61.5 ~ 62.5	東 京 慈 恵 会 医 科 大 学	阿部 正和	横 浜 市 立 大 学	横井 晋
62.5 ~ 63.5	東 京 医 科 歯 科 大 学	中谷 林太郎	東 京 女 子 医 科 大 学	喜多村 孝一
63.5 ~ 元5	慶 應 義 塾 大 学	植村 恭夫	東 京 女 子 医 科 大 学	高見沢 裕吉
元5 ~ 2.5	千 葉 大 学	村山 智	千 葉 大 学	小林 建一
2.5 ~ 3.5	東 京 医 科 大 学	三輪 哲郎	東 京 慈 恵 会 医 科 大 学	小 山 一 雄
3.5 ~ 4.5	東 京 大 学	遠藤 實	信 州 大 学	寺 山 正 道
4.5 ~ 5.5	日 本 医 科 大 学	菊地 吾郎	北 里 大 学	坂上 章夫
5.5 ~ 6.5	東 京 医 科 歯 科 大 学	鈴木 章夫	東 京 医 科 歯 科 大 学	鈴木 章夫
6.5 ~ 7.5	東 京 医 科 歯 科 大 学	鈴木 章夫	聖マリアンナ医科大	須階 二朗
7.5 ~ 8.5	北 里 大 学	佐藤 登志郎	群 馬 大 学	宇田川 英一
8.5 ~ 9.5	千 葉 大 学	高橋 英世	東 京 慈 恵 会 医 科 大 学	酒井 紀
9.5 ~ 10.5	日 本 大 学	瀬在 幸安	東 京 医 科 歯 科 大 学	大島 博幸
10.5 ~ 11.5	東 京 大 学	石川 隆俊	昭 和 大 学	藤 卷 悦 夫
11.5 ~ 12.5	慶 應 義 塾 大 学	猿田 享男	信 州 大 学	小 宮 山 淳 章
12.5 ~ 13.5	東 京 医 科 歯 科 大 学	佐藤 達夫	北 里 大 学	柿 田 雄 二
13.5 ~ 14.5	聖マリアンナ医科大	村山 正博	東 京 大 学	武 谷 雄 彦
14.5 ~ 14.7.16	千 葉 大 学	福田 康一郎	東 京 慈 恵 会 医 科 大 学	大 石 幸 彦
14.7.17 ~ 14.11.14	東 京 女 子 医 科 大 学	溝口 秀昭	東 京 医 科 歯 科 大 学	西 岡 清
14.11.15 ~ 15.5	東 京 医 科 歯 科 大 学	西岡清(代理)	東 京 医 科 歯 科 大 学	西 岡 清
15.5 ~ 16.5	東 京 医 科 歯 科 大 学	西岡清	東 京 慈 恵 会 医 科 大 学	大 石 幸 彦
16.5 ~ 18.5	自 治 医 科 大 学	布施 勝生	東 京 大 学	廣 川 信 隆
18.5 ~ 20.5	北 里 大 学	吉村 博邦	新 潟 大 学	下 條 文 武
20.5 ~ 22.5	信 州 大 学	大橋 俊夫	日 本 大 学	澤 野 充
22.5 ~ 23.7	岩 手 医 科 大 学	小川 彰	千 葉 大 学	河 野 陽 一
23.8 ~ 24.5	横 浜 市 立 大 学	黒岩 義	東 京 慈 恵 会 医 科 大 学	河 野 陽 一
24.5 ~ 26.5	東 京 慈 恵 会 医 科 大 学	森山 寛	千 葉 大 学	森 山 寛
26.5 ~ 27.5	埼 玉 医 科 大 学	別所 正美	和 歌 山 県 立 医 科 大 学	岡 村 晴 昭
27.5 ~ 28.5	大 阪 市 立 大 学	荒川 哲男	杏 林 大 学	岡 村 晴 昭
28.5 ~ 30.5	大 阪 市 立 大 学	荒川 哲男	東 邦 大 学	甲 能 直 幸
30.5 ~ 元5	順 天 堂 大 学	新井 一	東 邦 大 学	小 原 明
元5 ~ 2.5	山 形 大 学	山下 英俊	京 都 大 学	稲 垣 暢 也
2.5 ~ 3.4	山 形 大 学	山下 英俊	愛 知 医 科 大 学	羽 生 田 正 行
3.4.30 ~ 4.5	藤 田 医 科 大 学	湯澤 由紀夫	愛 知 医 科 大 学	藤 原 祥 裕
4.5 ~ 6.5	藤 田 医 科 大 学	湯澤 由紀夫	熊 本 大 学	富 澤 一 仁
6.5 ~ 7.5	千 葉 大 学	横手 幸太郎	秋 田 大 学	尾 野 恭 一
7.5 ~	昭 和 医 科 大 学	相良 博典	近 畿 大 学	松 村 到
	昭 和 医 科 大 学	相良 博典	大 阪 大 学	熊 ノ 郷 淳
			大 阪 公 立 大 学	鶴 田 大 輔

(役員任期 令和6.5.31～令和8.5定例社員総会まで)

## 会長・副会長

令和8.4.1現在

会 長	相良 博典	昭和医科大学病院	病院長
副会長	鶴田 大輔	大阪公立大学	医学部長

## 理 事

令和8.4.1現在

西川 祐司	旭川医科大学	学 長	渡辺 敦	札幌医科大学附属病院	病 院 長
下沖 収	岩手医科大学	前医学部長	土谷 順彦	山形大学医学部附属病院	前病院長
三木 隆司	千葉大学	医学部長	平松 祐司	筑波大学附属病院	病 院 長
南學 正臣	東京大学	医学部長	麻生 好正	獨協医科大学病院	病 院 長
秋田 恵一	東京科学大学	医学部長	齋藤 繁	群馬大学医学部附属病院	病 院 長
池田 隆徳	東邦大学	医学部長	相良 博典	昭和医科大学病院	病 院 長
河野 博隆	帝京大学	医学部長	山岡 邦宏	北里大学病院	病 院 長
大黒 正志	金沢医科大学病院	病 院 長	山本 善裕	富山大学附属病院	病 院 長
渡邊 裕司	浜松医科大学	学 長	松川 則之	名古屋市立大学病院	病 院 長
石井 優	大阪大学	医学部長	田中 俊宏	滋賀医科大学医学部附属病院	前病院長
鶴田 大輔	大阪公立大学	医学部長	池内 浩基	兵庫医科大学病院	病 院 長
竹谷 健	島根大学	医学部長	永井 敦	川崎医科大学附属病院	病 院 長
志馬 伸朗	広島大学	前医学部長	杉元 幹史	香川大学医学部附属病院	病 院 長
山本 健	久留米大学	医学部長	野口 満	佐賀大学医学部附属病院	病 院 長
池松 和哉	長崎大学	前医学部長	平井 俊範	熊本大学病院	病 院 長

## 監 事

令和8.4.1現在

監 事	新井 一	順天堂大学	理事長補佐
	富澤 一仁	熊本大学	理事・副学長

## 顧 問

令和8.4.1現在

顧 問	湯澤 由紀夫	藤田医科大学	副理事長
	横手 幸太郎	千葉大学	学長

## 相 談 役

令和8.4.1現在

相談役	尾野 恭一	秋田大学	理事・副学長
	松村 到	近畿大学	学長





## 会員異動一覧

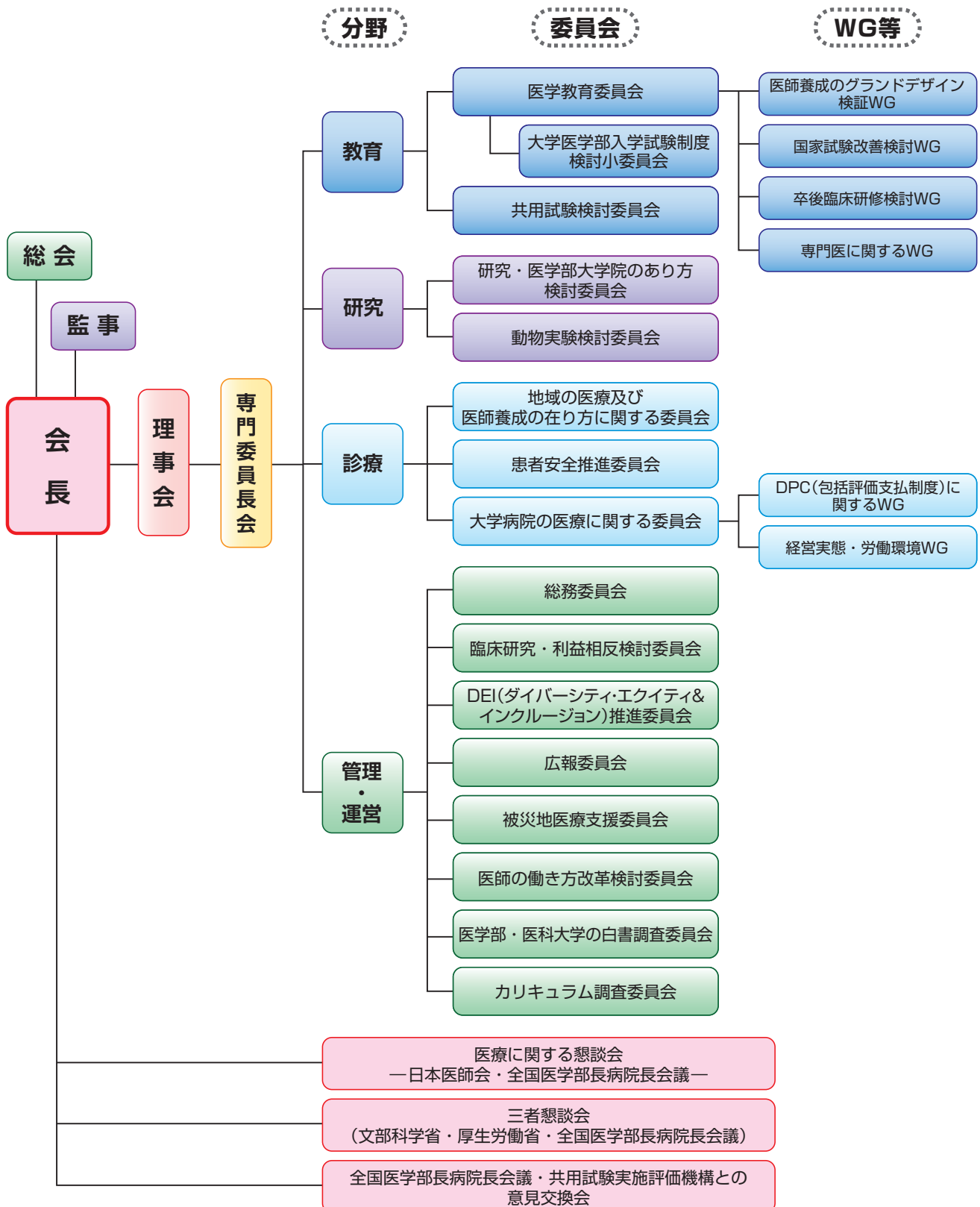
令和7.4.2～令和8.4.1

医学部長（医科大学長・医学群長・医学類長・学校長）							
大学名	新			旧		異動年月日	
札幌医科大学	ナカ 仲	セ 瀬	ヒロ 裕	シ 志	齋 藤 豪	R8.4.1	
岩手医科大学	アカ 赤	サカ 坂	マ 真	ミ 奈美	下 沖 収	R8.4.1	
東北医科薬科大学	カ 河	ワイ 合	ヨシ 佳	コ 子	柴 田 近	R8.4.1	
秋田大学	ミヤ 宮	コシ 腰	ナオ 尚	ヒサ 久	羽 渕 友 則	R8.4.1	
福島県立医科大学	イ 伊	セキ 関		ケン 憲	藤 森 敬 也	R8.4.1	
筑波大学	サ 佐	トウ 藤	トヨ 豊	ミ 実	武 井 陽 介	R8.4.1	
獨協医科大学	ヤ 矢	ザワ 澤	タク 卓	ヤ 也	種 市 洋	R8.4.1	
日本医科大学	サ 佐	エキ 伯	ヒデ 秀	ヒサ 久	弦 間 昭 彦	R8.2.6	
慶應義塾大学	タケ 武	バヤシ 林		トオル 亨	金 井 隆 典	R7.10.1	
順天堂大学	ワタ 綿	ダ 田	ヒロ 裕	タカ 孝	高 橋 和 久	R8.4.1	
杏林大学	シバ 柴	ハラ 原	ジュン 純	ジ 二	平 形 明 人	R8.4.1	
横浜市立大学	ミズ 水	キ 木	ノブ 信	ヒサ 久	金 子 猛	R8.4.1	
金沢医科大学	ホリ 堀		アリ 有	ユキ 行	大 黒 正 志	R8.4.1	
三重大学	ヤマ 山	ザキ 崎	ヒデ 英	トシ 俊	平 山 雅 浩	R8.4.1	
滋賀医科大学	トオ 遠	ヤマ 山	イク 育	オ 夫	上 本 伸 二	R8.4.1	
京都大学	ハ 波	タ 多	ノ 野	エツ 悦	ロウ 朗	R7.10.1	
大阪医科薬科大学	ヤ 矢	ノ 野	タカ 貴	ト 人	内 山 和 久	R7.6.14	
神戸大学	ショウ 勝	ジ 二	イク 郁	オ 夫	村 上 卓 道	R8.4.1	
奈良県立医科大学	シマ 嶋		ミド 緑	リ 倫	細 井 裕 司	R8.4.1	
島根大学	タケ 竹	タニ 谷		タクシ 健	石 原 俊 治	R7.10.1	
広島大学	ナカ 中	ノ 野	ユ 由	キ 紀子	コ 子	志 馬 伸 朗	R8.4.1
山口大学	キ 木	ムラ 村	カズ 和	ヒロ 博	田 邊 剛	R8.4.1	
愛媛大学	タケ 竹	ナカ 中	カツ 克	ト 斗	羽 藤 直 人	R8.4.1	
産業医科大学	サイ 齋	トウ 藤	ミツ 光	マサ 正	酒 井 昭 典	R8.4.1	
佐賀大学	ソエ 副	シマ 島	ヒデ 英	ノブ 伸	野 出 孝 一	R7.10.1	
長崎大学	ハラ 原		テツ 哲	ヤ 也	池 松 和 哉	R8.4.1	

附属病院長（病院長代理）						
病院名	新				旧	異動年月日
弘前大学医学部附属病院	ヨコ 横	ヤマ 山	ヨシ 良	ヒト 仁	袴 田 健 一	R8.4.1
岩手医科大学附属病院	アマ 天	ノ 野	ヒロ 博	オ 雄	森 野 禎 浩	R8.4.1
東北大学病院	カメ 亀	イ 井		タカシ 尚	張 替 秀 郎	R8.4.1
山形大学医学部附属病院	ソノ 園	ダ 田	ユキ 順	ヒコ 彦	土 谷 順 彦	R8.4.1
福島県立医科大学附属病院	フジ 藤	モリ 森	ケイ 敬	ヤ 也	大 平 弘 正	R8.4.1
東京大学医学部附属病院	ク 久	メ 米	ハル 春	キ 喜	田 中 栄	R8.1.27
東京科学大学病院	ミヤ 宮	ザキ 崎	ヤス 泰	ナリ 成	藤 井 靖 久	R8.4.1
日本医科大学付属病院	ヤマ 山	グチ 口	ヒロ 博	キ 樹	汲 田 伸一郎	R7.6.1
東京医科大学病院	ア 阿	ベ 部	シン 信	ジ 二	山 本 謙 吾	R7.9.9
東京女子医科大学病院	ヤマ 山	グチ 口	ジュン 淳	イチ 一	西 村 勝 治	R8.4.1
慶應義塾大学病院	フク 福	ナガ 永	コウ 興	イチ 壺	松 本 守 雄	R7.10.1
帝京大学医学部附属病院	フカ 深	ガワ 川	タケ 剛	オ 生	澤 村 成 史	R8.4.1
東海大学医学部付属病院	オ 小	ガワ 川	ヨシ 吉	アキ 明	渡 辺 雅 彦	R8.4.1
信州大学医学部附属病院	セキ 関	ジマ 島	ヨシ 良	キ 樹	花 岡 正 幸	R8.4.1
金沢医科大学病院	オオ 大	クロ 黒	マサ 正	シ 志	川 原 範 夫	R8.4.1
岐阜大学医学部附属病院	シ 清	ミズ 水	マサ 雅	ヒト 仁	秋 山 治 彦	R8.4.1
滋賀医科大学医学部附属病院	ノ 野	ザキ 崎	カズ 和	ヒコ 彦	田 中 俊 宏	R8.4.1
大阪大学医学部附属病院	サカ 坂	タ 田	ヤス 泰	シ 史	野々村 祝 夫	R8.4.1
香川大学医学部附属病院	スギ 杉	モト 元	ミキ 幹	オ 史	門 脇 則 光	R7.10.1
愛媛大学医学部附属病院	ハ 羽	トウ 藤	ナオ 直	ヒト 人	杉 山 隆	R8.4.1
高知大学医学部附属病院	キタ 北	オカ 岡	ヒロ 裕	アキ 章	花 崎 和 弘	R8.4.1
九州大学病院	ナカ 中	シマ 島	ヤス 康	ハル 晴	中 村 雅 史	R7.12.25
産業医科大学病院	サカ 酒	イ 井	アキ 昭	ノリ 典	田 中 文 啓	R8.4.1

# AJMC組織図

令和8.4.1現在



## 委員長・WG座長一覧

令和8.4.1現在

分野	専門委員会・ワーキンググループ (WG)	委員長・座長	大学名等
専門委員長会			
教育	医学教育委員会	南學 正臣 委員長	東京大学
	大学医学部入学試験制度検討小委員会	秋田 恵一 委員長	東京科学大学
	医師養成のグランドデザイン検証 WG		
	国家試験改善検討 WG	河野 博隆 座長	帝京大学
	卒後臨床研修検討 WG	松永 和人 座長	山口大学
	専門医に関する WG	古川 博之 座長	旭川医科大学
	共用試験検討委員会	関根 道和 委員長	富山大学
研究	研究・医学部大学院のあり方検討委員会	石井 優 委員長	大阪大学
	動物実験検討委員会	武井 陽介 委員長	筑波大学
診療	地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会	大脇 哲洋 委員長	鹿児島大学
	患者安全推進委員会	木下 浩作 委員長	日本大学
	大学病院の医療に関する委員会	眞庭 謙昌 委員長	神戸大学
	DPC (包括評価支払制度) に関する WG	眞庭 謙昌 座長	神戸大学
	経営実態・労働環境 WG	林 篤志 座長	富山大学
管理・運営	総務委員会	三木 隆司 委員長	千葉大学
	臨床研究・利益相反検討委員会	寺内 康夫 委員長	横浜市立大学
	DEI推進委員会	林 由起子 委員長	東京医科大学
	広報委員会	竹谷 健 委員長	鳥根大学
	被災地医療支援委員会	張替 秀郎 委員長	東北大学
	医師の働き方改革検討委員会	前田 嘉信 委員長	岡山大学
	医学部・医科大学の白書調査委員会	羽瀨 友則 委員長	秋田大学
	カリキュラム調査委員会	伊野 美幸 委員長	聖マリアンナ医科大学
医療に関する懇談会-日本医師会・全国医学部長病院長会議-		相良 博典 会長	昭和医科大学
三者懇談会 (文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議)		相良 博典 会長	昭和医科大学
全国医学部長病院長会議・共用試験実施評価機構との意見交換会		相良 博典 会長	昭和医科大学

## 令和7年度 委員会・WG等活動報告一覧

令和7.4.1～令和8.3.31

	日付	活動内容	(合同)開催者	開催場所・世話校等
令和7年 4月	4月3日	医学部・医科大学の白書調査委員会 (全体会議)		
	4月11日	九州地区部会		福岡大学
	4月14日	第1回医師の働き方改革検討委員会		
	4月18日	医療・介護・福祉の現場を守る緊急集会	自由民主党	自由民主党本部
	4月18日	東海・北陸地区部会		名古屋市立大学
	4月21日	関東地区部会		東邦大学
	4月25日	理事会、定例記者会見		TKPガーデンシティ PREMIUM 秋葉原 (Web併用)
	4月25日	東北・北海道地区部会		秋田大学

※3月11日 近畿地区部会（世話校：大阪大学）

令和7年 5月	5月	「広報 NO.77」発刊		
	5月9日	中国・四国地区部会		高知大学
	5月29日	大学病院を支援する議員連盟	自由民主党	衆議院議員会館
	5月30日	定例社員総会		都市センターホテル (Web併用)

令和7年 6月	6月	「わが国の大学医学部・医科大学 白書 2024」発刊		
	6月5日 ～6日	大学病院の医療に関する委員会・DPC (包括評価支払制度)に関するWG		協力：神戸大学
	6月16日	カリキュラム調査委員会 ブラッシュアップ(第1グループ)		
	6月18日	カリキュラム調査委員会 ブラッシュアップ(第3グループ)		
	6月24日	カリキュラム調査委員会 ブラッシュアップ(第4グループ)		
	6月25日	カリキュラム調査委員会 ブラッシュアップ(第2グループ)		

	日付	活動内容	(合同)開催者	開催場所・世話校等
令和7年 7月	7月7日	カリキュラム調査委員会 ブラッシュアップ(全体会議)		
	7月29日	第1回臨床研究・利益相反検討委員会		
令和7年 8月	8月	「医師国家試験に関するアンケート調査 結果報告」発刊		
	8月4日	第1回国家試験改善検討WG		
	8月22日	「令和8年度診療報酬改定に関する重点 要望事項」提出		
	8月27日	第36回三者懇談会		
令和7年 9月	9月1日	DEI推進委員会		
	9月17日	第1回患者安全推進委員会		
	9月17日	第1回医学教育委員会		
	9月19日	第1回研究・医学部大学院のあり方検討 委員会		
	9月25日	第1回地域の医療及び医師養成の在り方 に関する委員会		
	9月30日	「医師国家試験に関する要望書」提出		
令和7年 10月	10月3日	第1回医療に関する懇談会 - 日本医師会・全国医学部長病院長会議 -	日本医師会	日本医師会館 (Web併用)
	10月29日	第1回経営実態・労働環境WG		
令和7年 11月	11月6日	大学病院を支援する議員連盟	自由民主党	衆議院議員会館
	11月6日	第1回共用試験検討委員会		
	11月28日	理事会、定例記者会見		TKPガーデンシティ PREMIUM 秋葉原 (Web併用)
令和7年 12月	12月1日	第2回国家試験改善検討WG		
	12月15日	患者安全推進委員会・日本医療安全調査 機構 意見交換会		
	12月18日	社会保障を守る緊急集会	自由民主党	自由民主党本部
	12月24日	第1回卒後臨床研修検討WG		

# 活動報告

令和7年度 委員会・WG等活動報告一覧

AJMC 広報 NO.78

	日付	活動内容	(合同)開催者	開催場所・世話校等
令和8年 1月	1月	「大学病院経営実態調査」発刊		
	1月16日	理事会（メール審議）		
	1月20日	理事会（メール審議）		
	1月21日	第1回専門医に関するWG		
	1月29日	第37回三者懇談会		

令和8年 2月	2月16日	カリキュラム調査委員会 集計結果検討会議（第1グループ）		
	2月18日	カリキュラム調査委員会 集計結果検討会議（第4グループ）		
	2月26日	カリキュラム調査委員会 集計結果検討会議（第2グループ）		

令和8年 3月	3月2日	第2回患者安全推進委員会		
	3月2日	第2回臨床研究・利益相反検討委員会		
	3月4日	第2回共用試験検討委員会		
	3月4日	カリキュラム調査委員会 集計結果検討会議（第3グループ）		
	3月5日	地域枠制度についての意見交換会		TKPガーデンシティ PREMIUM 秋葉原
	3月5日	近畿地区部会		大阪公立大学
	3月9日	第2回研究・医学部大学院のあり方検討委員会		
	3月18日	カリキュラム調査委員会 集計結果検討会議（全体会議）		
	3月25日	第2回医師の働き方改革検討委員会		

※4月理事会議事録は、本会議ホームページに掲載しております。

## 全国医学部長病院長会議 令和7年度4月 理事会 【議事次第・資料一覧】

開催日時：令和7年4月25日(金) 14:00～16:50  
開催場所：TKPガーデンシティPREMIUM秋葉原 3A  
開催方法：現地開催+Web会議 (Zoom)

### 【開 会】

会 長 挨 拶

出欠一覧・座席表

### 1. 会 長 報 告

#### (1) 議員連盟関連について

会長報告資料1：議員連盟関連について

#### (2) 大臣等との面会について

会長報告資料2：大学病院の運営状況および次期診療報酬改定について

#### (3) 三者懇談会 ―文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議― について

会長報告資料3：三者懇談会 次第

#### (4) 医療に関する懇談会 ―日本医師会・全国医学部長病院長会議― について

会長報告資料4：医療に関する懇談会 資料目録

### 2. 確 認 事 項

#### (1) 令和6年11月理事会議事録の確認について

確認資料1：令和6年度11月理事会議事録

### 3. 審 議 事 項

#### 第1号議案：理事候補者の推薦について

審議資料1：理事候補者の推薦について

#### 第2号議案：副会長の選任について

審議資料2：副会長の選任について

#### 第3号議案：専門委員会委員長・WG座長の交代について

審議資料3：専門委員会委員長・WG座長の交代について

#### 第4号議案：専門委員会名称の変更について

審議資料4：委員会名称変更のご提案

#### 第5号議案：令和6年度事業報告案

審議資料5：令和6年度事業報告（案）

#### 第6号議案：令和6年度収支決算案

審議資料6：令和6年度収支決算報告書（案）

第7号議案：令和7年度事業計画案

審議資料7：令和7年度事業計画（案）

第8号議案：令和7年度収支予算案

審議資料8：令和7年度収支予算書（案）

第9号議案：旅費交通費の支給に関する内規の改定について

審議資料9：旅費交通費の支給に関する内規の改定について

第10号議案：令和7年度定例社員総会の開催について

審議資料10：令和7年度定例社員総会の開催について

#### 4. 各専門委員会委員長・各ワーキンググループ座長報告

(1) 医学教育委員会（南學委員長／Web）

報告資料1：医学教育委員会（会長代理報告）

(2) 大学医学部入学試験制度検討小委員会（東田委員長）

報告資料2：大学医学部入学試験制度検討小委員会

(3) 国家試験改善検討WG（河野座長）

（口頭報告）

(4) 卒後臨床研修検討WG（大嶋座長／Web）

報告資料3：卒後臨床研修検討WG

(5) 専門医に関するWG（古川座長）

報告資料4：専門医に関するWG

(6) 共用試験検討委員会（関根委員長）

報告資料5：共用試験検討委員会

(7) 研究・医学部大学院のあり方検討委員会（熊ノ郷委員長／欠席）

報告資料6：研究・医学部大学院のあり方検討委員会（会長代理報告）

(8) 動物実験検討委員会（木村委員長／Web）

報告資料7：動物実験検討委員会

(9) 患者安全推進委員会（木下委員長／Web）

報告資料8：患者安全推進委員会

(10) 経営実態・労働環境WG（林座長）

（口頭報告）

(11) 臨床研究・利益相反検討委員会（寺内委員長）

報告資料9：臨床研究・利益相反検討委員会

(12) 男女共同参画推進委員会（林委員長）

（口頭報告）

(13) 広報委員会（金井委員長／欠席）

報告資料10：広報委員会（会長代理報告）

(14) 医師の働き方改革検討委員会（前田委員長）

報告資料11：医師の働き方改革検討委員会

- (15) 医学部・医科大学の白書調査委員会（羽瀧委員長／欠席）  
報告資料12：医学部・医科大学の白書調査委員会（会長代理報告）
- (16) カリキュラム調査委員会（伊野委員長／Web）  
報告資料13：カリキュラム調査委員会
- (17) 大学病院の医療に関する委員会（富田委員長／Web）  
（口頭報告）

## 5. その他報告

- (1) 理事会及び総会の開催日程について  
その他報告資料1：今後の理事会及び総会の開催日程について（お知らせ）

【 閉 会 】

※5月定例社員総会議事録は、本会議ホームページに掲載しております。

## 全国医学部長病院長会議 令和7年度 5月 定例社員総会 【議事次第・資料一覧】

開催日時：令和7年5月30日(金) 13:00～17:30  
開催場所：都市センターホテル 3F コスモス  
開催方法：対面形式による現地開催（オンライン併用）

### 【 開 会 】

会員名簿・出欠一覧

#### 1. 会 長 報 告（挨拶・資料確認・報告）

・ 議員連盟関連について

会長報告資料1：議員連盟関連について

・ 大臣等との面会について

会長報告資料2：大臣等との面会について

・ 三者懇談会 ―文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議―

会長報告資料3：第34回～第35回 三者懇談会 次第

・ 医療に関する懇談会 ―日本医師会・全国医学部長病院長会議―

会長報告資料4：医療に関する懇談会 次第

・ 要望書等

会長報告資料5：R6年6月～R7年5月要望書

・ 外部会議等

会長報告資料6：外部会議委員等一覧

#### 2. 確 認 事 項

令和6年度定例社員総会議事録の確認について

確認資料1：令和6年度 定例社員総会議事録

#### 3. 報 告 事 項

令和6年度事業報告について

報告資料1：令和6年度事業報告表

#### 4. 審 議 事 項

第1号議案：令和6年度収支決算承認の件

審議資料1：令和6年度収支決算（案）

第2号議案：令和7年度事業計画承認の件

審議資料2：令和7年度事業計画（案）

第3号議案：令和7年度収支予算承認の件

審議資料3：令和7年度収支予算（案）

## 第4号議案：役員を選任について

審議資料4：理事候補一覧表

## 5. 委員会報告（各専門委員会委員長・各WG座長報告）

研究・医学部大学院のあり方検討委員会（熊ノ郷委員長）

委員会報告資料1：研究・医学部大学院のあり方検討委員会

## 6. 講演会

## (1) 日本医師会 松本 吉郎 会長

「医師会と医学部・大学病院の連携強化に向けて」

講演会資料1：医師会と医学部・大学病院の連携強化に向けて

## (2) 文部科学省高等教育局医学教育課 日比 謙一郎 課長

「医学教育の現状と課題」

講演会資料2：医学教育の現状と課題

## (3) 厚生労働省医政局医事課 西嶋 康浩 課長

「最近の医療政策の動向について」

講演会資料3：最近の医療政策の動向について

## (4) 楽天グループ株式会社 三木谷 浩史 代表取締役会長兼社長

「未来を切り拓くイノベーション」

講演会資料4：未来を切り拓くイノベーション

休憩

## 7. 委員会報告（各専門委員会委員長・各WG座長報告）

## (1) DEI推進委員会（林委員長）

（口頭報告）

## (2) 経営実態・労働環境WG（林座長）

（口頭報告）

## (3) 医学教育委員会（南學委員長）

（口頭報告）

## (4) 大学医学部入学試験制度検討小委員会（東田委員長）

委員会報告資料2：大学医学部入学試験制度検討小委員会

## (5) 国家試験改善検討WG（河野座長）

委員会報告資料3：国家試験改善検討WG

## (6) 卒後臨床研修検討WG（大嶋座長）

委員会報告資料4：卒後臨床研修検討WG（会長代理報告）

## (7) 専門医に関するWG（古川座長）

委員会報告資料5：専門医に関するWG

## (8) 動物実験検討委員会（木村委員長）

委員会報告資料6：動物実験検討委員会

- (9) 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会（大屋委員長）  
委員会報告資料7：地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会
- (10) 患者安全推進委員会（木下委員長）  
委員会報告資料8：患者安全推進委員会
- (11) 臨床研究・利益相反検討委員会（寺内委員長）  
委員会報告資料9：臨床研究・利益相反検討委員会（会長代理報告）
- (12) 広報委員会（金井委員長）  
委員会報告資料10：広報委員会
- (13) 医師の働き方改革検討委員会（前田委員長）  
委員会報告資料11：医師の働き方改革検討委員会  
近畿地区（大阪大学 野々村病院長）  
提案議題資料1：若手医師の確保～研究時間の確保も含めて～
- (14) 医学部・医科大学の白書調査委員会（羽瀧委員長）  
（口頭報告）
- (15) カリキュラム調査委員会（伊野委員長）  
委員会報告資料12：カリキュラム調査委員会
- (16) 共用試験検討委員会（関根委員長）  
委員会報告資料13：共用試験検討委員会  
東北・北海道地区（秋田大学 羽瀧医学部長）  
提案議題資料2：共用試験（OSCE・CBT）における人員確保について  
中国・四国地区（高知大学 井上医学部長）  
提案議題資料3：臨床実習前OSCEにおける評価者負担の軽減について
8. 提 案 議 題（地区部会報告）  
九州地区（熊本大学 尾池医学部長）  
提案議題資料4：生成AIを活用した研究活動に関する指針の策定について  
中国・四国地区（高知大学 井上医学部長）  
提案議題資料5：合理的配慮の実情や判断基準、合理的配慮と医師としての適性評価のバランスについて  
中国・四国地区（高知大学 井上医学部長）  
提案議題資料6：初期臨床研修先病院の見学のための実習中の欠席について
9. そ の 他  
委員長・座長の交代について  
その他資料1：組織図、委員長・座長一覧  
医療機関勤務環境評価センターにおける大学病院の医療サーベイヤー推薦について  
その他資料2：医療サーベイヤー推薦依頼について  
今後の理事会及び総会の開催日程について  
その他資料3：理事会及び総会の開催日程

【 閉 会 】

※11月理事会議事録は、本会議ホームページに掲載しております。

## 全国医学部長病院長会議 令和7年度 11月 理事会 【議事次第・資料一覧】

開催日時：令和7年11月28日(金) 14:00～16:50  
開催場所：TKPガーデンシティPREMIUM秋葉原 3A  
開催方法：現地開催+Web会議 (Zoom)

### 【開 会】

会 長 挨拶  
出欠一覧・座席表

### 1. 会 長 報 告

- (1) 大臣等との面会について  
会長報告資料1：大臣等との面会について
- (2) 大学病院を支援する議員連盟について  
会長報告資料2：大学病院を支援する議員連盟議事次第
- (3) 三者懇談会 ―文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議― について  
会長報告資料3：三者懇談会 次第
- (4) 医療に関する懇談会 ―日本医師会・全国医学部長病院長会議― について  
会長報告資料4：医療に関する懇談会 資料目録

### 2. 確 認 事 項

- (1) 令和7年4月理事会議事録の確認について  
確認資料1：令和7年度4月理事会議事録

### 3. 審 議 事 項

- 第1号議案：専門委員会委員長の交代について  
審議資料1：専門委員会委員長の交代について
- 第2号議案：職員給与表の改定について  
審議資料2：職員給与表の改定について
- 第3号議案：令和8年度定例社員総会の開催について  
審議資料3：令和8年度定例社員総会の開催について

### 4. 報 告 事 項

- (1) 事務局長の再任について

休 憩

## 5. 各専門委員会委員長・各ワーキンググループ座長報告

- (1) 研究・医学部大学院のあり方検討委員会（石井委員長）  
（口頭報告）
- (2) 医学教育委員会（南學委員長／Web）  
報告資料1：医学教育委員会
- (3) 国家試験改善検討WG（河野座長）  
報告資料2：国家試験改善検討WG
- (4) 共用試験検討委員会（関根委員長）  
（口頭報告）
- (5) 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会（大脇委員長）  
報告資料3：地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会
- (6) 患者安全推進委員会（木下委員長）  
報告資料4：患者安全推進委員会
- (7) 大学病院の医療に関する委員会（眞庭委員長）  
報告資料5：大学病院の医療に関する委員会
- (8) 経営実態・労働環境WG（林委員長）  
報告資料6：経営実態・労働環境WG
- (9) 臨床研究・利益相反検討委員会（寺内委員長）  
（口頭報告）
- (10) DEI 推進委員会（林委員長）  
報告資料7：DEI 推進委員会
- (11) 広報委員会（金井委員長）  
（口頭報告）
- (12) カリキュラム調査委員会（伊野委員長／Web）  
報告資料8：カリキュラム調査委員会
- (13) 大学医学部入学試験制度検討小委員会（秋田委員長／Web）  
（口頭報告）

## 6. 厚生労働省からの説明

厚生労働省 健康・生活衛生局 難病対策課 移植医療対策推進室 島田 志帆 室長

- (1) 臓器のあっせん業の許可等について  
説明資料1：臓器のあっせん業の許可等について
- (2) 質疑応答

## 7. その他報告

- (1) 理事会及び総会の開催日程について  
その他報告資料1：今後の理事会及び総会の開催日程について（お知らせ）
- (2) 本日の記者会見について  
その他報告資料2：定例記者会見資料

【 閉 会 】

## 委員会・WG活動内容

## 医学教育委員会



## 委員長

東京大学 医学部長  
南學 正臣

## 委員

高橋 誠 (北海道大学)  
古川 博之 (旭川医科大学)  
竹石 恭知  
(福島県立医科大学)  
江頭 正人 (東京大学)  
秋田 恵一 (東京科学大学)  
河野 博隆 (帝京大学)  
伊野 美幸  
(聖マリアンナ医科大学)  
関根 道和 (富山大学)  
錦織 宏 (名古屋大学)  
鈴木敬一郎 (兵庫医科大学)  
西山 成 (香川大学)  
松永 和人 (山口大学)

## I. 活動内容

本委員会は、AJMCの医学教育に関わる部門、すなわち4つのワーキンググループ（医師養成のグランドデザイン検証WG、国家試験改善検討WG、卒後臨床研修検討WG、専門医に関するWG）、大学医学部入学試験制度小委員会、共用試験検討委員会、そしてカリキュラム調査委員会が連携し、入試から学部教育、卒後臨床研修、専門医教育まで、医学教育全般に関することを検討する委員会です。働き方改革が施行される中で、お忙しい教員の先生方に過剰な負担をかけることなく高い教育の質を維持することが重要と考えております。公的化された共用試験による教員への負担も懸念される中、医学教育委員会は、これらの課題に関して、状況分析と議論を深め、各大学が実施する医学教育の充実に貢献したいと考えております。

## II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

## ■委員会開催：

日時：令和7年9月17日(水) 16:00～17:00

議題：1. 国家試験改善検討ワーキンググループより

- ・第119回医師国家試験アンケート調査結果について
- ・医師国家試験のCBT方式の導入、選抜方法の見直し（絶対評価化）について

2. その他

## 大学医学部入学試験制度検討小委員会



### 委員長

東京科学大学 医学部長  
秋田 恵一

### 委員

西川 祐司 (旭川医科大学)  
小川 元之 (北里大学)  
関根 道和 (富山大学)  
夜久 均  
(京都府立医科大学)  
井上 啓史 (高知大学)  
小玉 正太 (福岡大学)

### I. 活動内容

大学医学部入学試験制度検討小委員会は、公正な医学部入学試験の在り方を示し、その実現を目指して2018年に創設されました。これまで、「大学医学部入学試験制度に関する規範」を策定するとともに、その規範の遵守状況に関するアンケート調査を実施し、性別や年齢などによる差別のない、公正な入学試験が行われているかを確認してきました。

一方で、医学部入試に求められるのは公正さだけではありません。十分な学力を備えた学生を選抜することに加え、人間性を適切に評価することも重要です。さらに、多様な人材を確保する観点から、さまざまな入試区分が設けられています。

本小委員会では、各大学でどのような入試が行われ、どのような効果が見られるのかについて、定期的にアンケート調査を実施していきます。その結果を踏まえ、医学部入試における課題の解決や、新たな入試制度の開発につながる提言を行っていきたいと考えています。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 国家試験改善検討 WG



### 座長

帝京大学 医学部長  
河野 博隆

### 委員

田中 伸哉 (北海道大学)  
石橋 恭之 (弘前大学)  
高橋 和久 (順天堂大学)  
平形 明人 (杏林大学)  
小泉 修一 (山梨大学)  
中川 崇 (富山大学)  
平山 雅浩 (三重大学)  
上本 伸二 (滋賀医科大学)  
矢野 貴人 (大阪医科薬科大学)  
田邊 剛 (山口大学)  
大脇 哲洋 (鹿児島大学)

### I. 活動内容

医師国家試験は、卒前教育・卒後臨床研修などの一連の医師養成過程の中に位置付けられており、医学部のカリキュラムに大きな影響を与えています。医道審議会医師分科会の方針に従い、CBT、OSCEは共用試験として公的化が進みました。本来は、この変化に対応して医師国家試験も改革が進むことになっています。しかし、実際には国家試験は前例踏襲の旧態依然とした体制であり、大きな変化がありません。医学生が各段階で適正な評価を受けることはよいことですが、現状はいわゆる「評価疲れ」の状態となり医学生の大きな負担となっています。

モデル・コア・カリキュラムが整備され、JACMEの認証により、各大学医学部の教育体制の標準化が進んでいます。医学知識はCBT、臨床技能・態度はPre-CCとPost-CCのOSCEで公的な評価を受けるようになった今日、医師国家試験に求められる役割は大きく変化しているのではないのでしょうか。

本WGは、毎年、学生、教員を対象として「医師国家試験に関するアンケート調査」を独自に行い、この結果に基づいて厚生労働省など関係機関に要望書を提出し、医師国家試験の改善に向けて活動してきました。今後も、アンケート結果を基に、医師国家試験の現状と今後のあり方について検証を重ね、実質的な医師国家試験の改善に結びつくように要望をまとめるだけでなく、関係省庁と現実的なディスカッションを行っていきたいと考えています。みなさまにもぜひ建設的な意見をお寄せいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

### II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

#### ■WG開催：

日 時：令和7年8月4日(月) 14:30～15:30

議 題：第119回医師国家試験アンケート調査結果について

日 時：令和7年12月1日(月) 14:30～15:30

議 題：1. 医師国家試験に関する要望書提出の報告について  
2. 第120回医師国家試験アンケート調査について

#### ■アンケート調査：「第120回医師国家試験に関するアンケート調査」

期 間：令和8年2月～令和8年5月

対 象：①医師国家試験受験生  
②医学部長または医学教育担当の教員

結 果：冊子にて配付予定

#### ■要望書：「医師国家試験に関する要望書」

日 時：令和7年9月30日(火)

提出先：厚生労働省・文部科学省

#### ■発刊物：令和7年8月「医師国家試験に関するアンケート調査結果報告」

## 卒後臨床研修検討 WG



### 座長

山口大学 病院長  
松永 和人

### 委員

永瀬 智 (山形大学)  
酒井 謙 (東邦大学)  
福永 興彦 (慶應義塾大学)  
藤枝 重治 (福井大学)  
廣瀬 雄一 (藤田医科大学)  
細井 裕司  
(奈良県立医科大学)  
花崎 和弘 (高知大学)  
酒井 昭典 (産業医科大学)

### I. 活動内容

卒後臨床研修制度が導入されて約20年が経過し、医師の地域偏在と診療科偏在、医師としてのプロフェッショナルリズムの低下、大学病院の医師派遣機能の減退などの課題が指摘されています。医師の地域偏在の解消に向けた都道府県別のシーリングの設定に加え、2022年度の改定では、医学教育モデル・コアカリキュラムとの整合性の推進、研修の到達目標の策定、大都市圏の募集定員の圧縮、必修分野に一般外来研修の追加、などが適用されましたが、その実効性には検証が必要です。大学病院の研修医数は減少しており、2024年度のマッチング率は35.3%となっています。大学病院の研修医を充足する方策を検討する必要があります。また2026年度以降に開始される研修制度の見直しについては、研修病院の指定基準、小児科・産科プログラムの運用、研修病院の第三者評価、広域連携型プログラム、などに関する協議が進められています。卒後臨床研修検討ワーキンググループでは、諸課題の解決と今後の在り方について検討を進めてまいります。引き続きご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

#### ■WG開催：

日 時：令和7年12月24日(水) 19:00～20:00

- 議 題：1. 広域連携型プログラムに関する準備状況調査について  
2. グランドデザインの検討について  
3. 今後の卒後臨床研修制度について  
4. その他

#### ■アンケート調査：「広域連携型プログラムに関する準備状況調査」

期 間：令和8年3月11日(水)～令和8年3月24日(火)

対 象：広域連携型プログラム対象区域の会員 (病院長)

## 専門医に関する WG



## 座長

旭川医科大学 名誉教授  
古川 博之

## 委員

張替 秀郎 (東北大学)  
吉野 一郎  
(国際医療福祉大学)  
池田 隆徳 (東邦大学)  
金井 隆典 (慶應義塾大学)  
木内 博之 (山梨大学)  
藤枝 重治 (福井大学)  
東田 有智 (近畿大学)  
盛武 浩 (宮崎大学)

## I. 活動内容

日本専門医機構が平成26年5月に発足したことに伴い創設されたWGです。

全国医学部長病院長会議 (AJMC) としては、大学病院が19基本領域ならびにサブスペシャリティ領域における研修基幹病院の多くを担っていることもあり、日本専門医機構と密接に関わりながら、AJMC内の意見を集約し、内外に発信・提言していくのが使命と考えております。

現在WGが取り扱っている内容としては、地域枠医師の不同意離脱者に対する機構の対応、サブスペシャリティ領域の機構認定の在り方、医師偏在是正のために行われているシーリング制度やマッチング制度の適応、臨床研究コースの活性化を含む研究力強化などについて議論しております。今後は、機構のガバナンスの強化策、そのための機構理事会の在り方についても議論を広げることができればと思っております。

令和8年度の活動として、上記の内容につき必要に応じて発信・提言を行っていきたいと考えております。

## II. 活動報告 (R7.4月~R8.3月)

## ■WG開催:

日 時: 令和8年1月21日(水) 10:00 ~ 11:00

議 題: 1. 昨年度のまとめ

2. 現在の問題点について

1) サブスペシャリティの方向性と今後の専門医機構のあり方

2) シーリングについて

3) その他

## 共用試験検討委員会



### 委員長

富山大学 副学長  
関根 道和

### 委員

佐藤 慎哉 (山形大学)  
増田 道明 (獨協医科大学)  
川合 謙介 (自治医科大学)  
江頭 正人 (東京大学)  
北村 聖 (東京大学)  
高村 昭輝 (富山大学)  
木村 宏 (名古屋大学)  
鶴田 大輔 (大阪公立大学)  
金子 一成 (関西医科大学)  
大脇 哲洋 (鹿児島大学)

### I. 活動内容

令和3年5月成立の改正医師法により、共用試験合格者の臨床実習における医業が可能となった。法改正を受けて、医道審議会医師分科会医学生共用試験部会が設置され、令和4年5月に「公的化後の共用試験に関する意見」をまとめ、令和5年2月に医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）が共用試験実施機関として指定されて、令和5年度から公的化された共用試験が実施された。

共用試験の公的化により診療参加型臨床実習が実質化された一方、大きな負担が各所に発生した。大学では、設備・備品費や人件費・旅費等の費用が増大した。CATOでは、各種委員会、認定評価者講習会、外部評価者の人件費・旅費等の費用が増大した結果、大きな経常損失が発生した。その結果、損失を各大学の会費に転嫁する形で損失を補填することが必要となり、制度の持続可能性に懸念が生じている。

そこで、令和5年度の共用試験検討委員会では、会員大学に対して「公的化された共用試験の実施に関する準備状況調査」を実施し、共用試験のあり方に関する要望書を令和6年3月に提出した。それらを踏まえて令和6年10月の医道審議会医師分科会医学生共用試験部会では、「令和7年度以降の共用試験に関する意見」がとりまとめられ、令和7年度の共用試験において負担軽減策の運用が開始された。

令和7年度の共用試験検討委員会では、これらの動向を踏まえつつ、令和6年度の共用試験の実施状況および令和7年度の負担軽減策を踏まえた今後の要望の取りまとめを目的として「令和7年度公的化された共用試験実施に関する実施状況調査（令和6年度実績）」を実施した。その結果、CATO会費や受験料といった表に出るコスト以外にも、各大学が負担している設備・備品費や人件費・旅費等といった表に出ないコストも依然として高額であることが明らかとなり、大学の予算削減や働き方改革の中で、制度の持続可能性の点からさらなる改善が必要であることが明らかとなった。これらの調査結果を踏まえて、今後の共用試験のあり方等について要望書を取りまとめた。

### II. 活動報告（R7.4月～R8.3月）

#### ■委員会開催：

日 時：令和7年11月6日（木）15:00～15:45

議 題：1. 令和7年度 公的化された共用試験に関する実施状況調査（令和6年度実績）について  
2. その他

日 時：令和8年3月4日（水）9:00～10:00

議 題：1. 令和7年度 公的化された共用試験に関する実施状況調査（令和6年度実績）結果について  
2. 令和7年度 公的化された共用試験に関する要望書(案) について  
3. その他

#### ■アンケート調査：「令和7年度 公的化された共用試験に関する実施状況調査（令和6年度実績）」

期 間：令和7年12月8日（月）～令和7年12月26日（金）

結 果：会員へ送付

#### ■要望書：「令和7年度公的化された共用試験に関する要望書」

日 時：令和8年3月19日（木）

提出先：厚生労働省、文部科学省、公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構

## 研究・医学部大学院のあり方検討委員会



### 委員長

大阪大学 医学部長  
石井 優

### 委員

南須原康行 (北海道大学)  
石井 直人 (東北大学)  
南學 正臣 (東京大学)  
武林 亨 (慶應義塾大学)  
高橋 和久 (順天堂大学)  
勝野 雅央 (名古屋大学)  
波多野悦朗 (京都大学)  
鶴田 大輔 (大阪公立大学)  
村上 卓道 (神戸大学)  
鈴木敬一郎 (兵庫医科大学)  
門脇 則光 (香川大学)  
尾池 雄一 (熊本大学)

### I. 活動内容

本委員会は日本の医学研究と医学部大学院教育の将来像について検討を行うことを目的として設置されています。近年、医学教育の標準化や参加型臨床実習の導入、初期臨床研修制度や新専門医制度の整備などにより、医学教育と医師養成の仕組みは大きく変化してきました。これらの改革は臨床能力の向上という点で重要な意義を持つ一方で、若手医師が研究に関わる機会や時間が減少しているのではないかと指摘もあります。また、大学病院を取り巻く医療提供体制や経営環境の変化も、研究活動に少なからぬ影響を及ぼしています。こうした状況の中で、医学部は単に優れた臨床医を育成するだけでなく、未知の病態の解明や新しい治療法の開発を通じて将来の医学・医療の発展に貢献するという重要な使命を担っています。本委員会では、日本の医学研究を取り巻く環境の変化を踏まえながら、医学部における研究の活性化と大学院教育の充実の両立をどのように図るべきかについて幅広く議論を進めています。

今後、次世代の医学研究者を育成する仕組みや医学部大学院の教育・研究体制の在り方について整理し、日本の医学研究の持続的な発展につながる提言を取りまとめていきます

### II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

#### ■委員会開催：

日 時：令和7年9月19日(金) 13:00～14:00

議 題：1. 委託事業アンケート調査の実施について  
2. 研究医育成のための実態調査(学部教育)について  
3. 間接経費の取扱いについて  
4. その他

日 時：令和8年3月9日(月) 9:00～10:00

議 題：1. 委託事業アンケート調査結果等について  
2. 報告事項(間接経費の取扱いについて)  
3. その他

#### ■アンケート調査：「大学・大学病院の魅力向上・人材確保のための調査」 「研究医育成のための実態調査」

期 間：令和7年9月30日(火)～10月31日(金)

対 象：会員大学、医学部医学生(5・6年生)、大学院生、病院勤務  
医師

結 果：会員に提供

## 動物実験検討委員会



### 委員長

筑波大学 前医学群長  
武井 陽介

### 委員

畠山 鎮次 (北海道大学)  
國田 智 (自治医科大学)  
森 茂久 (埼玉医科大学)  
金井 正美 (東京科学大学)  
奥山 隆平 (信州大学)  
木村 宏 (名古屋大学)  
岩田 仲生 (藤田医科大学)  
中尾 和貴 (大阪大学)  
越本 知大 (宮崎大学)  
浦野 徹  
(自然科学研究機構)

### I. 活動内容

本委員会は、各大学の適切な自主管理により動物実験が円滑に実施され、人類の健康と福祉の増進につながる科学技術の発展に寄与する体制構築を目的として活動してまいりました。

今後、委員の皆様とともに、我が国の動物実験のあり方について建設的な議論を深め、科学技術の発展と動物愛護の調和を図りながら、適切な動物実験環境の構築に努めてまいりますので、ご指導ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会



### 委員長

鹿児島大学 医学部長  
大脇 哲洋

### 委員

齋藤 豪 (札幌医科大学)  
石橋 恭之 (弘前大学)  
長谷川仁志 (秋田大学)  
小池 創一 (自治医科大学)  
篠塚 望 (埼玉医科大学)  
井口清太郎 (新潟大学)  
関根 道和 (富山大学)  
牛越 博昭 (岐阜大学)  
平山 雅浩 (三重大学)  
佐野 千晶 (島根大学)  
松本 正俊 (広島大学)  
阿波谷敏英 (高知大学)  
前田 隆浩 (長崎大学)

### オブザーバー

大屋 祐輔 (琉球大学)

### I. 活動内容

「地域における医師養成の在り方に関する委員会」は、令和3年度より、活動の類似性とキャリアパスの連続性を考慮し、「地域医療検討委員会」と合併し、「地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会」となっています。

地域枠制度については、全体として、文部科学省や厚生労働省の医療政策の中でも、着実な成果をもたらしている制度と言えますが、開始から20年余りが経過する中で、時代の変遷と共にその運用や在り方を考える時期に来ています。定員増としての地域枠制度と、恒久定員内に設けた地域枠制度があり、更に修学資金を必ず借りる制度と、貸与は行わない制度も含まれます。また、入学後に募集する制度や、出身地を問わない者を認める制度など、一概にまとめることが難しいことを、6つの制度に分類して令和7年度版として報告しました。一方で、医学部定員増は人口減少の中で将来構想上限界となり、臨時定員増の段階的廃止や、地域枠定員の人数や制度の見直しが必要になってきています。ここで重要なのが、直接対面での討論で、細かな問題点を明らかにすることであり、令和8年3月には全ての都道府県や関係する医育大学の関係者を集めて意見交換会を例年通り行いました。非常に有意義な議論が行われました。毎回、離脱対策の議論は盛り上がり、全国的には離脱者数は以前に比べて減少していますが、各大学、各都道府県ともに、地域枠定員増への現実的な対応に苦勞されていることが示されました。その結果についても、報告書に記載しております。

委員会としても、調査の継続により、地域枠制度の有用性や実効性、また課題などを明らかにし、この制度の改善などの提言につながるよう情報発信に努めていきたいと思ひます。各大学におかれましては煩雑な調査となっておりますが、引き続き、ご協力のほどをお願い申し上げます。2026年度から始まる「新しい地域医療構想」では、大学病院本院の役割として、幅広い医育機能、医師の派遣機能、広域の高度医療提供機能の3つが示されています。委員会としてもAJMCの他の委員会と共同して対応していきたいと思ひます。

### II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

#### ■委員会開催：

日 時：令和7年9月25日(木) 10:00～11:00

議 題：1. 開会  
2. 今年度の委託事業の実施内容について  
3. その他

#### ■意見交換：地域枠制度についての意見交換会

日 時：令和8年3月5日(木) 13:00～17:30

場 所：TKPガーデンシティ PREMIUM 秋葉原

#### ■アンケート調査：

「令和7年度 地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査」

期 間：令和7年12月10日(水)～12月26日(金)

対 象：会員医学部長

結 果：冊子にて配付予定

「地域枠学生の現状及び意識調査」

期 間：令和7年12月12日(金)～令和8年1月12日(月)

対 象：地域枠で入学した学生

結 果：冊子にて配付予定

## 患者安全推進委員会



### 委員長

日本大学 医学部長  
木下 浩作

### 委員

橋本 重厚  
(福島県立医科大学)

中島 勸 (埼玉医科大学)

滝沢 牧子 (埼玉医科大学)

岩瀬博太郎 (千葉大学)

米村 滋人 (東京大学)

櫻井 淳 (日本大学)

吉田 謙一 (東京医科大学)

大嶽 浩司 (昭和医科大学)

小林 弘幸 (順天堂大学)

後藤 隆久 (横浜市立大学)

大磯義一郎 (浜松医科大学)

中島 和江 (大阪大学)

中村伸理子 (福岡大学)

水谷 渉  
(日本医師会総合政策研究機構)

### アドバイザー

有賀 徹 (昭和医科大学)

坂本 哲也 (帝京大学)

### I. 活動内容

本委員会は、医療の安全性と信頼性をさらに向上させることを目的に、「患者安全推進委員会」と改称され、活発な議論を重ねました。

最近の主な検討課題として、以下の3点が挙げられます。

1. 医療事故調査制度に関するアンケート調査の結果を踏まえた対応策の検討
2. 医療と刑事司法の関係性についての議論と相互理解の促進
3. 無過失補償制度のあり方についての課題整理と制度設計の検討

患者安全を推進するため、これらのテーマを中心に医療環境の整備も含めた多角的な議論を進めています。今年度も各関連団体と緊密に連携し、新たな課題の抽出や解決策の検討に取り組んでまいります。

こうした取り組みを通じて、重要事項について委員会内外で協議し、相互理解を深めながら議論を継続することで、患者安全の確立と医療の質の向上に貢献したいと考えております。関係各位のご指導とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

#### ■委員会開催：

日 時：令和7年9月17日(水) 10:00～12:00

議 題：1. 医療事故調査制度に関するアンケート調査結果について  
2. その他

日 時：令和8年3月2日(月) 10:00～12:00

議 題：1. 日本医療安全調査機構との意見交換会の振り返り  
2. 日本医療安全調査機構の理事会に関する報告  
3. 来年度のアンケート調査について  
4. その他

#### ■意見交換：日本医療安全調査機構との意見交換会

日 時：令和7年12月15日(月) 10:00～12:00

場 所：日本医療安全調査機構会議室

#### ■アンケート調査：「医療事故調査制度に関するアンケート調査」

期 間：令和7年5月16日(金)～令和7年6月20日(金)

対 象：会員病院長／各病院医療安全管理責任者

## 大学病院の医療に関する委員会



### 委員長

神戸大学 教授  
眞庭 謙昌

### 委員

渡邊 博之 (秋田大学)  
相良 博典 (昭和医科大学)  
澤村 成史 (帝京大学)  
林 篤志 (富山大学)  
丸山 彰一 (名古屋大学)  
吉川 公彦  
(奈良県立医科大学)  
杉山 隆 (愛媛大学)  
中村 雅史 (九州大学)

### I. 活動内容

令和8年度の診療報酬改定では、大学病院における賃上げ対応、医師の働き方改革、地域連携、在院日数の適正化、医療DX、感染症対応などへの評価が重視されており、高度急性期医療・教育・研究を担う大学病院の重要性が一定程度反映された内容となっています。

一方で、高度医療機器の維持・更新や人材育成に要する費用など、診療報酬のみでは十分に賄いきれない構造的課題があり、加えて、薬剤・材料費や光熱費の高騰、人件費の上昇も引き続き経営を圧迫する要因となっています。

今後は、高度急性期機能の選択と集中、紹介・逆紹介の徹底、病床運用の最適化、タスクシフトの推進、原価管理の精緻化を着実に進めるとともに、大学病院の本質的役割である教育・研究機能の維持・発展にも努めていく必要があります。

「大学病院の医療に関する委員会」および「DPC（包括評価支払制度）に関するワーキンググループ（WG）」においては、文部科学省、厚生労働省をはじめとする行政機関からの情報収集と意見交換、日本医師会などの医療関係団体との連携を通じて、大学病院がその使命を十分に果たせる体制整備に向けた情報共有と環境整備を進めてまいります。

皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

### II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

#### ■合同委員会開催：

大学病院の医療に関する委員会・DPC（包括評価支払制度）に関するWG（神戸）

（協力：神戸大学）

日 時：令和7年6月5日（木）～6日（金）

- 議 題：
1. 令和8年度の診療報酬改定に向けた各病院の現状と課題
  2. 令和8年度改定への要望事項の検討
  3. その他

## DPC（包括評価支払制度）に関するWG



### 座長

神戸大学 教授

眞庭 謙昌

### 委員

森野 禎浩 (岩手医科大学)

平松 祐司 (筑波大学)

山口 博樹 (日本医科大学)

酒井 謙 (東邦大学)

山本 善裕 (富山大学)

竹内 裕也 (浜松医科大学)

佐和 貞治  
(京都府立医科大学)

勝間田敬弘  
(大阪医科薬科大学)

永井 敦 (川崎医科大学)

野村 政壽 (久留米大学)

### オブザーバー

南谷 佳弘 (秋田大学)

小山 信彌 (東邦大学)

富田 善彦 (新潟大学)

松田 晋哉  
(福岡国際医療福祉大学)

### I. 活動内容

令和8年度の診療報酬改定では、大学病院における賃上げ対応、医師の働き方改革、地域連携、在院日数の適正化、医療DX、感染症対応などへの評価が重視されており、高度急性期医療・教育・研究を担う大学病院の重要性が一定程度反映された内容となっています。

一方で、高度医療機器の維持・更新や人材育成に要する費用など、診療報酬のみでは十分に賄いきくい構造的課題があり、加えて、薬剤・材料費や光熱費の高騰、人件費の上昇も引き続き経営を圧迫する要因となっています。

今後は、高度急性期機能の選択と集中、紹介・逆紹介の徹底、病床運用の最適化、タスクシフトの推進、原価管理の精緻化を着実に進めるとともに、大学病院の本質的役割である教育・研究機能の維持・発展にも努めていく必要があります。

「大学病院の医療に関する委員会」および「DPC（包括評価支払制度）に関するワーキンググループ（WG）」においては、文部科学省、厚生労働省をはじめとする行政機関からの情報収集と意見交換、日本医師会などの医療関係団体との連携を通じて、大学病院がその使命を十分に果たせる体制整備に向けた情報共有と環境整備を進めてまいります。

皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

### II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

#### ■合同委員会開催：

大学病院の医療に関する委員会・DPC（包括評価支払制度）に関するWG（神戸）

（協力：神戸大学）

日 時：令和7年6月5日(木)～6日(金)

議 題：1. 令和8年度の診療報酬改定に向けた各病院の現状と課題  
2. 令和8年度改定への要望事項の検討  
3. その他

#### ■アンケート調査：「令和7年4月の医療機関別係数調査」

期 間：令和7年4月3日(木)～4月18日(金)

対 象：会員国公立病院長

結 果：会員病院長へ送付

「令和8年度診療報酬改定の要望に伴う食事療養費調査」

期 間：令和7年5月8日(木)～5月27日(火)

対 象：会員病院長

結 果：会員病院長へ送付

「大学病院の逆紹介割合に関する調査」

期 間：令和7年8月1日(金)～8月22日(金)

対 象：会員病院長

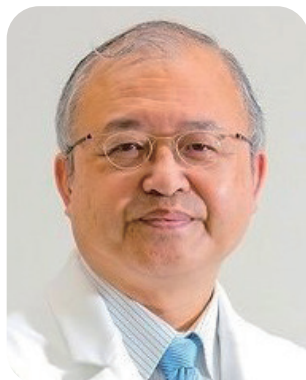
結 果：会員病院長へ送付予定

#### ■要望書：「令和8年度診療報酬改定に関する重点要望事項」

期 間：令和7年8月22日(金)

提出先：厚生労働省

## 経営実態・労働環境 WG



## 座長

富山大学 副学長  
林 篤志

## 委員

森野 禎浩 (岩手医科大学)  
平松 祐司 (筑波大学)  
遠藤 格 (横浜市立大学)  
富田 善彦 (新潟大学)  
池内 浩基 (兵庫医科大学)  
杉山 隆 (愛媛大学)  
平井 俊範 (熊本大学)

## オブザーバー

小山 信彌 (東邦大学)

## I. 活動内容

この度、全国医学部長病院長会議 (AJMC) の経営実態・労働環境ワーキンググループの座長を拝命いたしました富山大学の林です。前任の相良先生がまとめて来られた仕事を発展させ、継続して参る所存ですので宜しくお願い致します。

大学病院は、特定機能病院としてすべての診療機能を有し、医療安全等に経費も要する上、コロナ関連補助金がなくなり、光熱水費が著しく上昇、物価も高騰し、さらに医師の働き方改革に伴う人件費増加も加わり、かつてないほど厳しい経営状況となっています。

このような状況においても、我々は前に進んでいく必要があります、そのために「大学病院に勤務する医師の待遇改善の取組」「医師の労働時間短縮計画に向けた取組」「研究および教育のエフォート増加に対する取組」「産業保健の仕組みの活用状況」「タスクシェア、タスクシフトに対する取組」「地域医療の支援状況」「女性医師等への支援状況」等に関するアンケート調査を行います。これらの調査の結果から、全国の大学病院の状況を把握し、今後のあるべき姿、どう変化していかねばいけないかなど、各大学病院の参考となるようにしたいと思います。文部科学省や厚生労働省の意見も取り入れ、目的達成のために活動して参りたいと思います。会員の皆様方の多大なるご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

## ■WG開催：

日 時：令和7年10月29日(水) 15:00～17:00

議 題：1. 令和7年度大学病院経営実態調査の調査結果について  
2. その他

## ■アンケート調査：「令和7年度 大学病院経営実態調査」

期 間：令和7年5月26日(月)～6月30日(月)

対 象：会員病院長

結 果：冊子にて配付

## ■発刊物：令和8年1月

「令和7年度 大学病院経営実態調査」

## 総務委員会



## 委員長

千葉大学 医学部長  
三木 隆司

## 委員

渡辺 敦 (札幌医科大学)  
下沖 収 (岩手医科大学)  
平松 祐司 (筑波大学)  
吉崎 智一 (金沢大学)  
松川 則之 (名古屋市立大学)  
池内 浩基 (兵庫医科大学)  
和田 淳 (岡山大学)  
山本 健 (久留米大学)

## I. 活動内容

昨年より総務委員会委員長を拝命しております、千葉大学大学院医学研究院長の三木隆司でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

私は令和5年4月に千葉大学医学研究院長を拝命いたしました。奇しくもその時期に、全国の国立大学が輪番で務めている全国国立大学医学部長会議の責任校が、実に100年ぶりに本学へ回ってきたというご縁をいただきました。右も左も分からぬ浅学の身ながら、この不思議な巡り合わせにより、全国の医学部を取り巻く課題に関する最新の情報に触れるとともに、我が国の医学教育と医療を行政面から支えてくださっている文部科学省・厚生労働省の幹部の皆様から、直接ご意見を伺う大変貴重な機会を得ることができました。

また、全国国立大学医学部長会議と密接な関係を有する全国国立大学病院長会議の活動にもオブザーバーとして参加させていただくなかで、基礎医学を専門としてきた私にとってこれまで遠い存在であった大学病院の診療・教育の課題が、実は医育機関に属するすべての教職員が一丸となって乗り越えるべき共通の課題であると強く認識するようになりました。

さらに、この間、全国医学部長病院長会議にも会員として参加させていただき、本会議が将来の医学部および附属病院における教育・研究・診療の発展を下支えする極めて重要な基盤組織であること、そしてその活動が正しい方向性を示す羅針盤として機能していることを、あらためて実感いたしました。

こうした状況のもと、総務委員会は、会員校全体の活動を支援するべく、会員の皆様に迅速かつ正確な情報をお届けするとともに、各委員会の活動を適切に調整し、皆様の取り組みを横断的に結びつける役割を担うべきものと考えております。

総務委員会の円滑な運営には、会員の皆様および各委員会からのご意見・ご教示が不可欠でございます。我が国の医学と医療の健全な発展のため、引き続き変わらぬお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 臨床研究・利益相反検討委員会



### 委員長

横浜市立大学 教授  
寺内 康夫

### 委員

南須原康行 (北海道大学)  
羽瀨 友則 (秋田大学)  
種市 洋 (獨協医科大学)  
花岡 英紀 (千葉大学)  
南學 正臣 (東京大学)  
吉田 雅幸 (東京科学大学)  
廣瀬 雄一 (藤田医科大学)  
波多野悦朗 (京都大学)  
鶴田 大輔 (大阪公立大学)

### I. 活動内容

臨床研究・利益相反検討委員会では、臨床研究や個人・組織の利益相反管理のあり方を示すとともに、文部科学省、厚生労働省、製薬協、日本医学会・日本医学会連合などの関連団体と意見交換を積極的に進めました。また、利益相反管理を専門とする平井昭光弁護士・税理士にもオブザーバー参加していただくことにしました。

令和7年度の事業として、①企業が関与する講演会等において企業側がスライドをチェックする件の検討と改善策の提案、②医学研究の発展のために必要な奨学寄附金に関する検討、③AJMCが示す利益相反および臨床研究に関する各種ガイドラインや指針の改訂に関する検討、④会員施設において円滑に臨床研究が推進されるよう臨床研究法の問題点の抽出や組織における利益相反に関する現状把握のために令和6年度に行われたアンケート調査結果の分析を実施しました。

AJMCでは平成25年に医学系研究機関における組織COI管理ガイドンスを発出しましたが、その後改訂がなされていません。令和6年度に実施したアンケート調査結果では、組織COI管理が大学間で大きな開きがあることが浮き彫りになりました。令和7年度から私は日本医学会利益相反委員会委員長にも就きましたので、日本医学会・日本医学会連合と歩調をあわせながら、アカデミアにおける利益相反管理の理解と適切な管理の推進に尽力します。

今後もアカデミア研究者の立場に立った環境整備と企業との適切な関係、日本医学会・日本医学会連合と連携した利益相反管理を提案します。ご協力とご支援をお願い致します。

### II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

#### ■委員会開催：

日 時：令和7年7月29日(火) 14:00～15:00

- 議 題：1. アンケート調査結果について  
2. 報告事項  
(1) 企業からの学会や研究会における講演依頼について  
(2) 日本医学会利益相反委員会の動向  
3. その他

日 時：令和8年3月2日(月) 13:00～14:30

- 議 題：1. 「製薬企業からの謝金等の受領の在り方に関する提言」の見直しについて  
2. アンケート調査結果について (謝金受領、組織COI、臨床研究法)  
3. 「医学系研究機関における組織COI管理ガイドンス」について  
4. 報告事項  
(1) 日本医学会分科会利益相反会議について  
(2) 「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」改定について

## DEI 推進委員会



### 委員長

東京医科大学 理事長  
林 由起子

### 委員

東 信良 (旭川医科大学)  
名越 澄子 (埼玉医科大学)  
本多 祥子  
(東京女子医科大学)  
前田 佳子  
(東京女子医科大学)  
萬 知子 (杏林大学)  
菊田健一郎 (福井大学)  
秋山 治彦 (岐阜大学)  
梅田 朋子 (滋賀医科大学)  
川股 知之  
(和歌山県立医科大学)  
砂田 芳秀 (川崎医科大学)  
西良 浩一 (徳島大学)  
磯部 紀子 (九州大学)

### I. 活動内容

本委員会は、会員大学の医師が属性によらず、あらゆる分野で輝いて活躍できる環境整備を目指しています。わが国における医師の労働時間、診療科選択、研究活動などの就労状況は、働き方改革の影響もあり劇的な変化を続け、全ての医師にとってキャリア形成は大きな課題となっています。本委員会では令和2年度から隔年で会員大学ならびに医師に対する意識調査を行い、誰もが輝いて活躍するために、以下の4つを提言してきました。

1. 性別役割分担意識の是正と男女共同参画体制の推進
2. 家事、育児、介護などの家庭生活を支援する社会基盤の充実
3. 長時間労働の是正と業務内容の効率化
4. 大学・大学病院に勤務する医師の経済的基盤の充実

令和6-7年度は労働時間、職場環境、生活基盤などの働きやすい環境整備が前進したか、これまでの意識調査と比較するとともに、介護休暇制度や男性の育児休暇取得体制など、更なる改善の方向性などについて調査・分析し、働きがいのある環境整備を推進するための提言を行う予定です。

今後も、これまでの当委員会活動が積み重ねてきた成果を更に発展させてまいりたいと思いますので、引き続きご指導とご支援をお願い致します。

### II. 活動報告 (R7.4月~R8.3月)

#### ■委員会開催：

日 時：令和7年9月1日(月) 17:00 ~ 17:30

議 題：DEI 推進委員会アンケート調査結果の分析について

#### ■発刊物：令和8年4月(予定)

「令和7年度(2025年)医師の働き方改革開始1年後のDEI推進環境の変化の実態調査」

## 広報委員会



### 委員長

島根大学 医学部長  
竹谷 健

### 委員

渡辺 淳 (札幌医科大学)  
永瀬 智 (山形大学)  
森 茂久 (埼玉医科大学)  
坂元 亨宇  
(国際医療福祉大学)

### I. 活動内容

広報委員会の役割は、全国医学部長病院長会議における活動を、広く社会にわかりやすく広報していくことにあります。我が国を含む世界中の医学・医療を取り巻く環境は激変しており、本会議の活動は、医療界のみならず、行政や産業界をはじめ、国民の皆さまに対して非常に大きな責任を担っています。本会議の活動の内容や成果を、ホームページ、広報誌、記者会見などを通じて、できるだけわかりやすい言葉で、正確かつ迅速に、広く広報していくことは大変重要な責務であると考えています。ホームページにおける情報発信を、よりわかりやすく、見やすくするために、つねに改善を加えて行きたいと思えます。さらに、本会議の方向性やメッセージ、声明などについても、皆さまのご理解が得られるよう、皆さまに見えるかたちで活動を行っていきたく思います。是非、よろしくごお願い申し上げます。

### II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

#### ■定例記者会見：

- 第1回 令和7年4月25日(金) 16:30～
- 第2回 令和7年11月28日(金) 17:00～

#### ■発刊物 (予定)：令和8年5月 「広報 No.78」

## 被災地医療支援委員会



### 委員長

東北大学 前病院長  
張替 秀郎

### 委員

南須原康行 (北海道大学)  
袴田 健一 (弘前大学)  
齋藤 繁 (群馬大学)  
大坪 毅人  
(聖マリアンナ医科大学)  
竹内 裕也 (浜松医科大学)  
丸山 彰一 (名古屋大学)  
高折 晃史 (京都大学)  
東田 有智 (近畿大学)  
椎名 浩昭 (島根大学)  
西良 浩一 (徳島大学)  
中島 康晴 (九州大学)  
三浦伸一郎 (福岡大学)

### I. 活動内容

本委員会は、東日本大震災による被災地への医療支援を取り扱う委員会として創設されました。本委員会の主な目的は、東日本大震災のような大災害が起こった際に被災地からの医療支援要請に応じて、AJMCや日本医師会など23組織（42団体）から構成される被災者健康支援連絡協議会と連携し、医師の派遣など被災地に必要な医療を提供することです。

2024年初頭の能登半島地震以降、本委員会が対応すべき大きな災害は発生していませんが、国内・周辺地域での地震の発生は引き続き高い可能性で予想されています。また、気候変動による集中豪雨も多く経験されており、最近では青森県の豪雪に対する災害救助法の適用など局所的な災害の頻度も高まっています。これら災害に対し、迅速かつ適切な対応がとれるよう、委員会として何をすべきかを平時から意識し、委員の方々と準備しておきたいと考えております。

災害の発生時には、AJMCの会員の皆様には多くのご負担をお願いすることとなりますが、国民の命・生活を守るためにご協力の程よろしくお願い申し上げます。

## 医師の働き方改革検討委員会



### 委員長

岡山大学 病院長  
前田 嘉信

### 委員

張替 秀郎 (東北大学)  
大鳥 精司 (千葉大学)  
小山 信彌 (東邦大学)  
相良 博典 (昭和医科大学)  
明石 勝也  
(聖マリアンナ医科大学)  
森 正樹 (東海大学)  
富田 善彦 (新潟大学)  
吉川 公彦  
(奈良県立医科大学)  
尾崎 誠 (長崎大学)

### I. 活動内容

医師の働き方改革検討委員会は、医師の労働環境の改善に向けた重要な取り組みを進めています。

令和6年度の活動では、医師の働き方改革が本格的に始まり、診療時間の増加が見られましたが、研究時間が圧迫されるという問題が浮き彫りになりました。これに対し、令和7年度では、医師の健康と研究活動の両立を図るため、ICTの導入を進め、診療業務の効率化を図ることが重要な課題として挙げられています。具体的には、診療時間を短縮することで、医師が研究に充てる時間を確保することを目指しています。

また、委員会は多職種連携の強化にも注力しており、チーム医療の推進を通じて医師の負担を軽減し、患者へのケアをより充実させる体制の整理が必要と考えています。これにより、医師がより多くの時間を研究や自己研鑽に費やせる環境を整えることが期待されます。

今後の方針としては、医師の働き方改革を進める中で、地域医療への貢献を強化し、大学病院としての役割を果たすことが挙げられます。診療報酬の見直しを通じて、医師の収入を安定させつつ、医療の質を向上させるための取り組みを続けていくべきと考えています。

医師の働き方改革検討委員会は、昨年度の成果を基にさらなる進展を目指し、医療現場の改善に向けた具体的な施策を推進しています。

### II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

#### ■委員会開催：

日 時：令和7年4月14日(月) 14:00～15:00

議 題：1. 医師の働き方改革に関するアンケート調査結果について  
2. その他

日 時：令和8年3月25日(水) 14:00～15:00

議 題：1. 医師の働き方改革に関するアンケート調査結果について  
2. その他

#### ■アンケート調査：「医師の働き方改革に関するアンケート調査」

期 間：令和7年12月22日(月)～令和8年2月6日(金)

対 象：会員病院長

結 果：会員に配付

期 間：令和8年1月7日(水)～令和8年2月6日(金)

対 象：会員大学病院を本務とする医師

結 果：会員に配付

## 医学部・医科大学の白書調査委員会



### 委員長

秋田大学 前医学部長  
羽瀧 友則

### 委員

齋藤 豪 (札幌医科大学)  
板東 良雄 (秋田大学)  
藤森 敬也 (福島県立医科大学)  
松藤 千弥 (東京慈恵会医科大学)  
小風 暁 (昭和医科大学)  
泉 美貴 (昭和医科大学)  
佐藤 昇 (新潟大学)  
岩淵 邦芳 (金沢医科大学)  
高橋 智 (名古屋市立大学)  
笠井 謙次 (愛知医科大学)  
上本 伸二 (滋賀医科大学)  
景山 誠二 (鳥取大学)  
西山 成 (香川大学)  
田中 文啓 (産業医科大学)  
野口 満 (佐賀大学)  
猪股 雅史 (大分大学)  
盛武 浩 (宮崎大学)

### アドバイザー

奈良 信雄 (順天堂大学)

### I. 活動内容

全国医学部長病院長会議 (AJMC) では1993年から2年ごとに「わが国の大学医学部・医科大学白書」を調査・発行しています。本白書は、「大学の評価体制・組織運営」、「医学教育」、「臨床研修」、「大学院と研究」、「大学附属病院」、「社会および地域への貢献」、「国際交流・貢献」の分野に分けて、質問を作成し、調査した内容を整理、まとめています。その質問項目は膨大かつ多岐に亘ります。

本白書に求められるものは、調査内容の継続性から医学部・医科大学の時代の変遷をつかみ取り、一方、時代に相応した調査内容の検討から、最新の状況や取組みを把握することであると考えます。本白書には、それぞれの大学や附属病院で懸案となっている課題に関して、全国の大学の現状を把握し、他大学との比較等を通して、皆様の今後の大学運営や病院運営に役立つ内容が豊富に含まれています。さらには2020年度版からは学生へのアンケート、2022年度版からは臨床研修医へのアンケート調査結果も本白書に盛り込んでおり、学生や臨床研修医の生の声も知ることができます。

このように、本白書は重要なメッセージを発信してきましたが、2021年4月に「医学部・医科大学の白書調査委員会」として独立、立ち上げることがAJMC理事会で決定されました。この重要な本委員会委員長を2022年春から仰せつかり、身の引き締まる思いであります。本白書の制作にあたっては各大学には膨大なアンケート調査という大きなご負担をお願いしています。それだからこそ、各大学の皆様が参考にし、大いに活用していただける調査内容と白書にしたいと考えております。関係各位からのご指導とご協力をお願いいたします。

### II. 活動報告 (R7.4月~R8.3月)

#### ■委員会開催:

日時: 令和7年4月3日(木) 15:30~19:00

議題: 「令和6年度 わが国の大学医学部・医科大学白書」の集計結果について

#### ■発刊物: 令和7年6月

「わが国の大学医学部・医科大学白書 2024」

## カリキュラム調査委員会



### 委員長

聖マリアンナ医科大学

特任教授

伊野 美幸

### 委員

蒔田 芳男 (旭川医科大学)

下沖 収 (岩手医科大学)

長谷川仁志 (秋田大学)

森 茂久 (埼玉医科大学)

山脇 正永 (東京科学大学)

中村真理子

(東京慈恵会医科大学)

鈴木 利哉

(大学改革支援・学位授与機構)

菊田健一郎 (福井大学)

鬼形 和道 (島根大学)

瀬尾 宏美 (高知大学)

安元 佐和 (福岡大学)

### アドバイザー

奈良 信雄 (順天堂大学)

### I. 活動内容

本委員会はAJMCの調査研究事業として、全国医学部のカリキュラムの現状調査を担当しております。AJMCのカリキュラム調査の歴史は古く、1975年より「医学教育カリキュラムの現状」として隔年で報告書を発行しております。

我が国の医学教育は、時代による変遷を重ね、かつて2023年問題と言われたWFMEのグローバルスタンダードに準拠した医学教育分野別評価も、現在では全国82校全ての医学部が受審を終え、JACMEにより認定されています。また、共用試験公的化、医師法改正による診療参加型臨床実習の更なる充実および卒前卒後教育のシームレス化に加え、働き方改革や医療DXを見据えた教育の在り方など、社会や医療を取り巻く様々な影響を受けながら日進月歩で改革が続けられております。

令和4年度改訂版の医学教育モデル・コア・カリキュラムが示すように、時代に沿った医療ニーズに対応出来る医師の育成が益々医育機関に求められており、今後も引き続き医学教育改革の動向の把握に資するよう、我が国の医学教育カリキュラムについての公的調査の役割を遂行する所存です。

アンケート調査につきましては、御多忙にもかかわらず各大学医学部関係者の皆様にご回答をいただきまして、心より御礼申し上げます。

今後とも何卒よろしくお願いいたします。

### II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

#### ■委員会開催：

日時：【全体会議】令和7年7月7日(月) 9:00～12:00

【第1グループ】令和7年6月16日(月) 15:30～17:30

【第2グループ】令和7年6月25日(水) 16:00～18:00

【第3グループ】令和7年6月18日(水) 13:30～15:30

【第4グループ】令和7年6月24日(火) 12:30～15:00

議題：「令和7年度 医学教育カリキュラムの調査」のブラッシュアップ

日時：【全体会議】令和8年3月18日(水) 14:30～18:00

【第1グループ】令和8年2月16日(月) 13:30～15:30

【第2グループ】令和8年2月26日(木) 15:00～17:00

【第3グループ】令和8年3月4日(水) 13:00～15:00

【第4グループ】令和8年2月18日(水) 13:30～15:30

議題：「令和7年度 医学教育カリキュラムの調査」の集計結果について

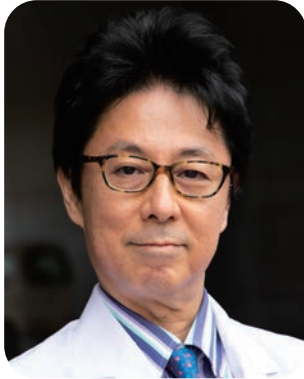
#### ■アンケート調査：「令和7年度 医学教育カリキュラム調査」

期間：令和7年8月18日(月)～9月30日(火)

対象：会員医学部長

結果：冊子にて配付予定

## 医療に関する懇談会—日本医師会・全国医学部長病院長会議—



### 委員長

昭和医科大学 病院長  
相良 博典

### 委員

古川 博之 (旭川医科大学)  
 羽瀨 友則 (秋田大学)  
 張替 秀郎 (東北大学)  
 武井 陽介 (筑波大学)  
 三木 隆司 (千葉大学)  
 南學 正臣 (東京大学)  
 秋田 恵一 (東京科学大学)  
 木下 浩作 (日本大学)  
 林 由起子 (東京医科大学)  
 竹谷 健 (島根大学)  
 河野 博隆 (帝京大学)  
 寺内 康夫 (横浜市立大学)  
 伊野 美幸  
 (聖マリアンナ医科大学)  
 関根 道和 (富山大学)  
 林 篤志 (富山大学)  
 石井 優 (大阪大学)  
 鶴田 大輔 (大阪公立大学)  
 眞庭 謙昌 (神戸大学)  
 前田 嘉信 (岡山大学)  
 松永 和人 (山口大学)  
 大脇 哲洋 (鹿児島大学)

### I. 活動内容

全国医学部長病院長会議 (AJMC) は大学医学部および附属病院の責任者を社員として、医学部が日本の医学・医療を担う人材育成という目的達成というアカデミアの責任を果たすために重要な役割を担っています。この目的を達成するため日本の医療に携わっている団体としての日本医師会と情報を共有し、連携することは重要です。AJMCは2005年(平成17年)から年2～3回、日本医師会と意見を交換する懇談会を開催しています。AJMCが取り組んでいる医学教育の改善、医療安全の推進、医師の働き方改革、医学研究体制整備を進め研究成果をあげることなど幅広く日本医師会と話し合い、意見を発信しております。

今後も日本医師会とは連携しつつ、日本の医学部・附属病院がその機能を発揮できるようにします。

### II. 活動報告 (R7.4月～R8.3月)

#### ■懇談会開催：

日 時：令和7年10月3日(金) 16:00～18:00

- 議 題：1. 大学病院の経営状況等に関する調査  
 2. 医師の働き方改革開始1年後のDEI推進環境の変化の実態調査について  
 3. 日本医師会ドクターバンクについて  
 4. 有料職業紹介について  
 5. 地域医療構想及び医療計画等について  
 6. その他

## 要望・声明・提言等 (令和7年4月～令和8年3月)

全国医学部長病院長会議では、専門委員会・ワーキンググループを中心に論議を重ね、常に社会に向けて情報を発信し、医学教育、研究、医療の様々な問題解決のために、行政等へ「改革の提言・要望」「声明」「調査結果の報告」等を行っています。

※本会議ホームページよりダウンロードできます。

<https://ajmc.jp>

### ■ 令和7年度大学病院関連要望 . . . 48

令和7年5月29日(木)

令和7年11月6日(木)

《提出先》

自由民主党 大学病院を支援する議員連盟会長

### ■ 令和8年度診療報酬改定に関する重点要望事項 . . . 53

令和7年8月22日(金)

《提出先》

厚生労働省大臣、保険局長

### ■ 医師国家試験に関する要望書 . . . 56

令和7年9月30日(火)

《提出先》

厚生労働省 医政局長

医政局医事課長

医政局医事課試験免許室長

文部科学省 高等教育局長

高等教育局医学教育課長

■ 令和7年度 公的化された共用試験に関する要望書 . . . 57

令和8年3月19日(木)

《提出先》

厚生労働省 医政局長

文部科学省 高等教育局長

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 理事長

## 令和7年度大学病院関連要望

令和7年5月29日

自由民主党  
「大学病院を支援する議員連盟」会長 殿

一般社団法人 全国医学部長病院長会議  
会 長 相良 博典  
一般社団法人 国立大学病院長会議  
会 長 大鳥 精司  
一般社団法人 日本私立医科大学協会  
会 長 炭山 嘉伸  
(公印省略)

### 令和7年度大学病院関連要望

平素より医学教育・研究および医療の改善充実に際してご指導、ご高配を賜り、誠にありがとうございます。

医師の働き方改革が施行され1年が経過いたしました。ご支援のおかげで大学病院の本務である教育、研究、診療の機能は各病院の努力のもと維持しております。一方で、経営面ではこれまで以上に厳しい状況になっており、特に今年度は物価上昇および賃上げへの対応に伴い経営状況は悪化し、大学病院本来の機能を維持していくことが困難になることも予想され、早急に対応しないと国民の健康や福祉に影響が出る恐れがあります。

つきましては、国公立大学病院全体に関する要望事項を下記のとおり取りまとめたので提出させていただきます。

厳しい財政状況下ではありますが、何卒ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

#### 記

#### 1. 医師の働き方改革を踏まえた財政支援について

医師の働き方改革が施行され9カ月が経過した時点で調査しましたので、その調査結果をもとに以下の事項を要望いたします。

#### ○地域医療確保暫定特例水準解消に向けた財政支援（人件費）

医師の業務負担軽減のためタスク・シェア/タスク・シフトを推進しておりますが、多くの大学から人員不足との回答があり、その要因は他医療機関との賃金格差

であると多くの回答がありました。2035 年度末の地域医療確保暫定特例水準の解消までに膨大な医師の時間外・休日労働時間を削減する必要があることから、医師を含むメディカルスタッフの確実な確保に向け、処遇改善（人件費）の支援を要望いたします。

## 2. 大学病院の経営に関する財政支援について

大学病院の経営状況について、物価上昇および賃上げに伴う影響について調査しましたので、その調査結果をもとに以下の事項を要望いたします。

### ① 処遇改善に向けた財政支援（ベースアップ評価料等の増額）

診療報酬改定により新設や加算されたベースアップ評価料等により収入額は増加しましたが、賃上げに対応する経費が収入額を大幅に上回り、令和 6 年度 1 大学病院約 2.9 億円の追加負担が生じ、令和 7 年度 1 大学病院約 1.1 億円の追加負担が見込まれます。令和 7 年度の対応は困難であるとの回答もあることから、早急にベースアップ評価料等の増額を要望いたします。

### ② 大学病院の医業費用について

- ・増収減益の要因となっている医業費用の推移を見ると、5 年間で経営に直接影響する経費のうち光熱水費等が 37% 増、委託費についても 28% 増と大幅に推移しており、今後も増加が見込まれるなか、早急に大学病院の経営基盤が強化できるよう財政支援を要望いたします。
- ・食事療養費についても、一般食 690 円に見直されましたが、調査では一般食で一食 1,047 円経費が発生しているとの回答があります。特に人件費と材料費の増加が要因となっていますので、物価上昇を踏まえた更なる増額を要望いたします。

### ③ 業務効率化に向けた財政支援（医療 DX の推進）

医療 DX の推進に向けて体制整備加算を措置していただいたところですが、医療機能を維持しつつ業務効率化により医師の働き方改革を推進していくためには最低でも 1 大学病院約 8 千万円が必要となりますので、体制整備加算の見直しや新たな財政的支援を要望いたします。

### ④ 高額医薬品の管理に伴う財政支援について

大学病院では高額医薬品の投与が必要な患者が多数入院しておりますが、高額医薬品は取扱い上高度な管理が必要となるため、薬剤師の負担が増加しています。また、患者の様態悪化に伴い使用できずに廃棄になる場合もあることから、高額医薬品を使用する際の管理コストに対して新たに評価をしていただくよう要望いたします。

ます。

## ⑤消費税に関する状況について

大学病院では多くの高額な医療機器等を使用していますが、直ちに診療報酬により消費税の補填がされているとは言えない状況にあります。次期診療報酬改定において補填方法も含めて検証していただくよう要望いたします。

### ◎大学病院の経営基盤の強化が必要

- ・診療報酬について、物価や賃金の上昇に応じてスライドする仕組み等の導入
- ・大学病院の新たな医療機関機能を維持するための財政支援

以上

令和7年11月6日

自由民主党  
「大学病院を支援する議員連盟」会長 殿

一般社団法人 全国医学部長病院長会議  
会 長 相良 博典  
一般社団法人 国立大学病院長会議  
会 長 大鳥 精司  
一般社団法人 日本私立医科大学協会  
会 長 炭山 嘉伸  
(公印省略)

### 令和7年度大学病院関連要望

平素より医学教育・研究および医療の改善充実に関してご指導、ご高配を賜り、誠にありがとうございます。

現在、大学病院の経営は危機的な状況にまで悪化しており、大学病院本来の機能を維持していくことが困難になることも予想され、早急に対応しないと国民の健康や福祉に影響が出る恐れがあります。

つきましては、令和7年度補正予算の編成を踏まえ、国公立大学病院全体に関する要望事項を下記のとおり提出させていただきます。

厳しい財政状況下ではありますが、何卒ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

#### 記

#### 1. 大学病院の経営基盤の強化について

全国の大学病院が機能不全となった場合、大学病院からの医師派遣等で支えられている地域の医療機関の存続も危ぶまれることになる。大学病院の経営基盤強化は地域の医療提供体制の維持にとって死活問題となることから財政面での支援が必要である

#### 2. 大学病院の教育・研究への支援について

大学病院が経営悪化から脱却するためには、厚生労働省による診療報酬等の充実は不可欠であるが、大学病院本来の教育・研究・診療機能を維持・強化するうえでは、大学病院を所管する文部科学省から「教育」、「研究」の観点からの財政支援も

必要である。

令和 8 年度以降の予算の充実は重要であるが、今年度、経営危機にある大学病院も多く、緊急対応として、厚生労働省、文部科学省双方からの補正予算の早急な編成を要望する。

以上

## 令和8年度診療報酬改定に関する重点要望事項

全医・病会議発第93号  
令和7年8月22日

厚生労働省  
保険局長 間 隆一郎 殿

一般社団法人 全国医学部長病院長会議  
会長 相 良 博 典  
(公印省略)

## 令和8年度診療報酬改定に関する重点要望事項

平素より医学教育・研究および医療の改善充実に際してご指導、ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

医師の働き方改革が施行され1年が経過いたしました。ご支援のおかげで大学病院の本務である教育、研究、診療の機能は各病院の努力のもと維持してまいりました。しかし、経営面ではこれまで以上に厳しい状況になっており、特に今年度は物価高騰および賃上げへの対応に伴い経営状況は悪化し、大学病院本来の機能を維持していくことが困難な状況に陥っている大学病院も出てきており、早急な対応がなければ国民の健康や福祉に影響が出る恐れがあります。

つきましては、国公立大学病院全体に関する要望事項を下記のとおり取りまとめましたので提出させていただきます。

厳しい財政状況下ではありますが、令和8年度診療報酬改定において物価高騰や賃上げを踏まえた適正な評価を要望いたします。

**【要望事項】****1. 大学病院の医療機関機能を維持するための財政支援について****(1) 大学病院の経営基盤の強化****① 特定機能病院の医療機関機能の評価について**

大学病院は、医学生の卒前教育や卒後教育、高度な研究、診療のほかに地域医療への貢献を担っています。特定機能病院のあり方が検討され、承認要件の見直しが議論されているところですが、大学病院が担う高度な医療提供、教育、研究、医師派遣等の地域医療支援に係る取組を評価していただくよう要望いたします。

**② 経営状況について（物価高騰、賃上げ対応）【説明資料2～6ページ】**

大学病院の医業収入は毎年増額しているにもかかわらず、医業費用が収入額を上回

る増収減益の状況が続いています。2022年度と2024年度の経常利益の推移を見ますと2022年度では8億円でしたが、その後急激に悪化して2023年では4.6億円の赤字となっており、2024年度ではさらに悪化し9.5億円、2025年度も同様に10億円の赤字を見込んでいます。個別の費目で見ると、給与費7.0%増、委託費11.4%増、設備関係費（医療機器及び基幹設備）12.4%増と大幅に増加しております。大学病院としての医療機関機能を維持していくために物価動向を踏まえた診療報酬による支援を要望いたします。

### (2) 処遇改善に向けた財政支援（賃上げ対応）【説明資料7ページ】

令和6年度の診療報酬改定においては、ベースアップ評価料等の新設や基本料等の加算により賃上げにかかる費用は1大学病院当たり3.1億円増額となりましたが、実際の賃上げには6億円の経費がかかっており、2.9億円の持ち出しがあることがわかりました。この持ち出し額は、令和7年度に賃上げで措置される分にほぼ相当しております。大学病院の人員確保は重要な課題であることから、実態を踏まえ、早急にベースアップ評価料等を見直していただき、確実に賃上げが実施できるよう財政的な支援を要望いたします。

### (3) 食事療養費の見直し（物価高騰対応）【説明資料8～10ページ】

令和7年度より食事療養費（一般食）が690円に見直されたところですが、令和7年2月分の食事療養に関わる収支額を調査したところ、収入額を支出額が上回っており1大学病院当り3千万円不足していることがわかりました。1年間で試算すると3.7億円の大きな負担になっております。その要因は、委託費などの高騰に伴い、1食当たりの費用が平成29年度の795円から1,350円まで増加していることであると考えられます。特定機能病院として、治療食を安定的に提供していくためには、物価動向を踏まえた診療報酬による支援を要望いたします。

## 2. 医師の働き方改革の推進に伴う財政支援について

### (1) 地域医療確保暫定特例水準解消に向けた財政支援【説明資料P11-12】

医師の業務負担軽減のためタスクシェア/タスクシフトを推進しておりますが、多くの大学から人員が不足しているとの回答がありました。2035年度末に地域医療確保暫定特例水準を解消するには膨大な医師の時間外・休日労働時間を削減する必要があります。医師及びメディカルスタッフを確保することが不可欠であるため、診療報酬による支援を要望いたします。

### (2) 業務効率化に向けた財政支援（医療DXの推進）【説明資料13ページ】

医療DXの推進に向けては、病院情報システムの維持・更新が不可欠であります、

現状の病院情報システムの維持・更新には高額な費用が発生しております。基幹システムのみ更新に係る経費を調査したところ、1大学病院当り国立大学病院では約5.3億円、私立大学病院では約8.1億円が新たに必要となることがわかりました。また、国が進める業務効率化に向けた医療DXの推進には最低でも1大学病院当り約8千万円が必要となりますので、体制整備加算の見直しや新たな財政的支援を要望いたします。

### 3. 消費税に関する状況について（物価高騰対応）

大学病院では高度医療を支える施設整備や多くの高額な医療機器等を使用していますが、購入後直ちに診療報酬により消費税の補填が十分になされているとは言えない状況にあります。次期診療報酬改定において補填方法を含めて検証するとともに実態に合わせた財政支援をしていただくよう要望いたします。

## 医師国家試験に関する要望書

全医・病会議発第 112 号  
令和 7 年 9 月 30 日

厚生労働省医政局 局長 森光 敬子 様  
文部科学省高等教育局 局長 合田 哲雄 様

一般社団法人 全国医学部長病院長会議  
会 長 相良 博典 (公印省略)  
同上 医学教育委員会  
委員長 南學 正臣 (公印省略)  
同上 国家試験改善検討ワーキンググループ  
座 長 河野 博隆 (公印省略)

### 医師国家試験に関する要望書

第 119 回医師国家試験を受験した受験生および全国の大学医学部、医科大学の教員を対象に実施した医師国家試験に関するアンケート調査の結果に基づき、全国医学部長病院長会議として以下を要望いたします。

1. 試験に関する情報公開、受験環境の整備を引き続きお願いする。
2. 全国医学部長病院長会議が公表した「我が国で求められる医師養成のためのグランドデザインへの提言 - 卒前・卒後のシームレスな医学教育を目指して -」を参考に、医師国家試験に関して、共用試験との円滑な連携を図ることを考慮した改革を関係機関でご検討いただきたい。
3. シームレスな医学教育の実現に向けて、大学の負担を増やすことなく、知識の評価に留まらない CBT 方式などの試験方式の導入をご検討いただきたい。
4. 合格基準が上昇し続けていること、医師国家試験が資格試験である事実に鑑み、従来の相対評価ではなく絶対評価に基づく選抜方法をご検討いただきたい。

以上

## 令和7年度 公的化された共用試験に関する要望書

全医・病会議発第 209 号  
令和 8 年 3 月 19 日

厚生労働省医政局  
局長 森光 敬子 様  
文部科学省高等教育局  
局長 合田 哲雄 様  
公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構  
理事長 栗原 敏 様

一般社団法人 全国医学部長病院長会議  
会長 相良 博典  
同 共用試験検討委員会  
委員長 関根 道和

## 令和7年度 公的化された共用試験に関する要望書

平素より大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。

令和3年5月成立の改正医師法により、共用試験合格者の臨床実習における医業が可能となりました。医道審議会医師分科会医学生共用試験部会の「公的化後の共用試験に関する意見」に基づき、試験実施機関として指定された医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）が、令和5年度から公的化された共用試験を実施しているところです。

共用試験の公的化により診療参加型臨床実習が実質化された一方、大きな負担が各所に発生しています。大学では、設備・備品費や人件費・旅費等の費用が増大しました。CATOでは、各種委員会、認定評価者講習会、外部評価者の人件費・旅費等の費用が増大した結果、大きな経常損失が発生しました。その結果、各大学の年会費に転嫁する形で損失を補填することが必要となり、制度の持続可能性に懸念が生じています。

そこで、全国医学部長病院長会議（AJMC）では、令和5年度の共用試験のあり方に関する要望書を令和6年3月に提出しました。その結果、令和6年10月の医道審議会医師分科会医学生共用試験部会で「令和7年度以降の共用試験に関する意見」が取りまとめられ、令和7年2月のCATOによる医学生共用試験OSCE全国説明会において、課題数、評価者、模擬患者等について要望書に沿った形で負担軽減の具体策が提示され、令和7年度のOSCEにおいて負担軽減策の運用が開始されたところです。

これらの動向を踏まえAJMCでは、令和7年度に「令和7年度公的化された共用試験に関する実施状況調査（令和6年度実績）」を実施しました。その結果、CATO年会費や受験料といった表に出るコスト以外にも、各大学が負担している設備・備品費や人

件費・旅費等といった表に出ないコストも依然として高額であることが明らかとなり、大学の予算削減や働き方改革の中で、制度の持続可能性の点から更なる改善が必要であると考えています。

そこで、これらの調査結果を踏まえ、今後の共用試験のあり方等について下記の要望を取りまとめましたので提出させていただきます。

ご検討のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 1. 共用試験全般に関する要望

今回の「令和7年度公的化された共用試験に関する実施状況調査（令和6年度実績）」においては、令和7年度の共用試験の現状と今後の要望についても調査を行いました。その結果、公平・公正な試験の実施の必要性については理解するものの、運用の過度な厳格化により労働負担や経済負担の増加が著しいとの意見が多く寄せられました。そのため、医道審議会意見以外の事項についても、引き続き様々な負担軽減策について検討いただくことを要望します。

### 2. CATO の財政再建計画と年会費・受験料に関する要望

今回の CATO における経常損失は、公的化された共用試験の実施に際して、各種委員会、認定評価者講習会、外部評価者の人件費・旅費等の費用が増大した結果であると推察されます。それにより、各大学の年会費・受験料に転嫁する形での損失補填が必要となりました。しかし、年会費・受験料への転嫁は緊急避難的な措置であると認識しています。そのため、年会費・受験料を元の水準に戻すことを目指した、財政再建計画を提示いただくことを要望します。

### 3. 実施大学への財政支援および CBT・OSCE センターの設置に関する要望

今回の調査結果から、令和6年度の共用試験（CBT および OSCE）運営に係る大学負担の経費は、最頻値で1大学当たり 350 万円程度でした。ただし、人件費の算出が困難との理由で、この経費に人件費を計上していない大学が一定数あります。したがって、年会費や受験料を加えた1回の共用試験実施に係る総コストは、1大学当たり 1,000 万円以上になり、持続可能性が強く懸念されます。

そのため、様々な経費に対する財政支援を強く要望します。また、将来的には、公的化された試験の厳格な実施と公平性の担保、大学負担の軽減、働き方改革などの観点から、CBT センターや OSCE センター等の設置に向けた協議の実施を要望します。

以上

## 懇談会・意見交換会・講演会等

全国医学部長病院長会議では、大学医学部や附属病院での、高度医療人の育成・国民への安全で高度な医療の提供・医学研究の推進・地域医療への貢献など、様々な問題やこれらに関する課題について、協議し相互の理解を深めるとともに意見の統一をはかり、わが国の医学並びに医療の向上に貢献するため、日本医師会・文部科学省・厚生労働省の方々や会員、関係団体と意見交換、懇談会、講演会、説明会等を行っております。

### ■ 文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会・・・60

- ・第36回 令和7年8月27日(水) 開催
- ・第37回 令和8年1月29日(木) 開催

### ■ 医療に関する懇談会 ―日本医師会・全国医学部長病院長会議―・・・62

- ・令和7年10月3日(金) 開催

### ■ 地域枠制度についての意見交換会・・・63

- ・令和8年3月5日(木) 開催

## 第36回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会

### 第36回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会 次第

開催日時：令和7年8月27日(水) 10:00～12:00

開催方法：対面とWEB（ZOOM）の併用会議

開催場所：全国医学部長病院長会議事務局 会議室  
(東京都文京区湯島 1-3-11 お茶の水プラザビル 8階)

#### 議 題：

1. 医学教育の現状と課題（文部科学省）
2. 地域医療構想と特定機能病院のあり方について（厚生労働省）
3. 令和8年度診療報酬改定に関する重点要望事項
4. 医師国家試験と医学共用試験（CBT、OSCE）の連携について
5. 診療参加型臨床実習の充実に伴う臨床研修の見直しについて
6. その他

#### 資 料：

- 資料1 医学教育の現状と課題
- 資料2 地域医療構想と特定機能病院のあり方について
- 資料3 令和8年度診療報酬改定に関する重点要望事項
- 資料4 共用試験の公的化を受けたシームレスな医師養成の実現に資する、  
共用試験と他の制度の評価・検討のための研究
- 資料5 診療参加型臨床実習の充実に伴う臨床研修の見直しについて
- 資料6 出席者名簿

## 第37回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会

## 第37回文部科学省・厚生労働省・全国医学部長病院長会議三者懇談会 次第

開催日時：令和8年1月29日(木) 10:00～12:00

開催方法：対面とWEB（ZOOM）の併用会議

開催場所：全国医学部長病院長会議事務局 会議室  
(東京都文京区湯島 1-3-11 お茶の水プラザビル 8階)

## 議 題：

1. 大学病院の機能強化推進・高度医療人材養成等の推進に関する予算について  
(文部科学省)
2. 大学医学部における地域枠等の導入促進等について  
(文部科学省)
3. 令和7年度の補正予算について 医療・介護等支援パッケージ (医療分野)  
(厚生労働省)
4. 特定機能病院と新たな地域医療構想について  
(厚生労働省)
5. 医師臨床研修制度の最近の動向等について  
(厚生労働省)
6. 医師国家試験に関するアンケート調査と今後の医師国家試験のあり方について  
(AJMC)
7. その他

## 資 料：

- 資料1 大学病院の機能強化推進・高度医療人材養成等の推進に関する予算について  
資料2 大学医学部における地域枠等の導入促進等について  
資料3 令和7年度の補正予算について 医療・介護等支援パッケージ (医療分野)  
資料4 特定機能病院と新たな地域医療構想について  
資料5 医師臨床研修制度の最近の動向等  
資料6 医師国家試験に関する要望およびアンケート調査内容について  
資料7 出席者名簿

## 医療に関する懇談会 ―日本医師会・全国医学部長病院長会議―

医療に関する懇談会  
―日本医師会・全国医学部長病院長会議―  
議事次第

日時：令和7年10月3日(金) 16:00~18:00

場所：日本医師会館501・502会議室（WEB会議併用）

司会：日本医師会 常任理事 城守 国斗

1. 開 会

2. 挨拶

相 良 博 典      全国医学部長病院長会議 会長  
松 本 吉 郎      日本医師会 会長

3. 議 題

- (1) 大学病院の経営状況等に関する調査  
(全国医学部長病院長会議 相良会長)
- (2) 医師の働き方改革開始1年後のDEI推進環境の変化の実態調査について  
(全国医学部長病院長会議 林委員長)
- (3) 日本医師会ドクターバンクについて  
(日本医師会 松岡常任理事)
- (4) 有料職業紹介について  
(日本医師会 角田副会長)
- (5) 地域医療構想及び医療計画等について  
(日本医師会 坂本常任理事)
- (6) その他

4. 閉 会

釜 菫      敏      日本医師会 副会長

## 地域枠制度についての意見交換会

全国医学部長病院長会議 地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会  
地域枠制度についての意見交換会 プログラム

## ●趣 旨

地域枠制度等の地域医療に関する最新的话题を共有し、都道府県、大学、地域医療支援センターの関係者間の相互理解を深める。

## ●日 時

2026年3月5日(木) 13:00～17:30

## ●会 場

TKPガーデンシティ PREMIUM秋葉原 3階 3A

住所：東京都千代田区外神田1-7-5 フロントプレイス秋葉原 3F TEL：03-5289-7099

URL：https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/gcp-akihabara

## ●主な参加者

- ・各都道府県の地域医療担当者
- ・各都道府県の地域医療支援センター担当者
- ・各都道府県の大学の地域医療関連講座代表者
- ・厚生労働省医政局医事課担当者
- ・文部科学省高等教育局医学教育課担当者
- ・全国医学部長病院長会議（委員長、委員、事務局）

## ●内 容

12:30	受 付	
13:00	開 会	総合司会：地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会 松本 正俊 委員（広島大学 地域医療システム学 教授）
	委員長挨拶 (5分)	地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会 大脇 哲洋 委員長（鹿児島大学 医学部長）
13:05	講 演	1. 令和6年度調査の概要（10分） 前田 隆浩 委員（長崎大学 総合診療科 教授）
13:15		2. 文部科学省ご担当者による講演（10分） 文部科学省高等教育局医学教育課企画官 松本 晴樹 様
13:25		3. 厚生労働省ご担当者による講演（10分） 厚生労働省医政局医事課医師養成等企画調整室長 和泉 誠人 様
13:35		4. 新潟県地域枠について－改めて地域枠制度の意義を考える－（20分） 新潟県福祉保健部福祉保健総務課 参与 神田 健史 様
13:55		5. 地域枠を「確保策」から「キャリア形成の仕組み」へ（10分） 千葉大学医学部附属病院 次世代医療構想センター長 吉村 健佑 様
14:05		6. 質疑応答（5分）
14:10	グループワーク (90分)	1. グループワークの説明 2. グループディスカッション 3. グループ内のまとめ

15:40	テーマごとの まとめ (20分)	ファシリテーターは各グループで出た意見を集約 → 発表用スライド作成 ※ファシリテーター以外の方は、休憩時間となります
16:00	休 憩	(5分)
16:05	テーマごとの 発表 (45分)	A) 義務年限終了後の進路 B) 診療科選択 C) 地域枠定員
16:50	総合討論 (35分)	1. 総合討論 (30分) 2. 総合討論のまとめ (5分)
17:25	総 括	大協委員長
17:30	閉 会	



## 文部科学省 医学教育等関係業務功労者表彰式



文部科学省では、国立・公立・私立大学における医学並びに歯学に関する教育、研究若しくは大学病院の患者診療等の補助的業務に関して、顕著な功労のあった方々を表彰することにより、関係職員の士気を高揚し、さらに医学教育又は歯学教育の充実向上を図ることを目的として、文部科学大臣の表彰を行っています。令和7年度は12月2日に表彰式が挙行され80名が受賞されました。表彰式には本会議の会長も出席し祝辞を述べました。

## 《 祝 辞 》

令和7年度 医学教育等関係業務功労者表彰式にあたり、全国82の医学部・医科大学の学長ならびに医学部長・付属病院長で組織される全国医学部長病院長会議を代表して、ひと言お祝いのご挨拶を申し上げます。

この表彰は、昭和49年から始められ半世紀を超える歴史と伝統のあるもので、わが国における医学・歯学の教育をより良くするために、文部科学省が力を注いでこられた事業と伺っています。

本日、ここにお集まりの皆様は、国・公・私立大学において医学・歯学系の教育あるいは研究・診療に長年にわたり従事され、顕著なご業績のあった方々であり、その功労を称え、表彰を受けられました。医学教育に携わるものとして、心からお慶び申し上げますとともに、これまでの多大なご尽

力に感謝を申し上げる次第です。

日本はすでに少子超高齢社会に突入しており、待ったなしで社会をどのように維持していくかという課題に直面しております。また、国外へ目を向ければ、国際社会が不安定な局面を迎えているため、今後の見通しを立てることは容易ではありません。そのような状況にあって、明るい未来を築く希望は、良き教育にこそあるものと思います。

医学・歯学の領域において、人間性と専門性を兼ね備えた質の高い医療人を社会に送り出すことが、私どもの社会的使命であり責任です。医学・歯学教育は医療の専門家を養成することにとどまらず、その教育成果は社会に還元され、国民の健康を守る重要な役割を担っていることは申し上げるまでもありません。

昨年からの医師の働き方改革が施行されましたが、これまで皆さまと共に構築してきた教育実績や研究実績、また地域の中核的な医療機関としての機能を維持しつつ対応していかなければなりません。

そのためには、これまでの経験を十分活かしていただき、更なるタスク・シフトなどにもご協力いただくこととなりますので、よろしくお願い申し上げます。

本日は表彰される皆様は、長年、各大学の職場での業務を通じて社会へ貢献されるとともに、医学部・歯学部学生や 研修医、専攻医等のご指導にも力を尽くされ、医学教育の質の向上に大いに貢献いただきました。

今後も日本が世界で一流の医療水準を保ち、国民の健康長寿を実現していくためには、大学における皆さまの役割がますます大きくなっていくものと思います。全国医学部長病院長会議としても、教育・研究・診療の向上に努め、皆さまをサポートさせて頂く所存です。

本日は、素晴らしい表彰式を開催して頂きました松本 洋平大臣をはじめ、文部科学省の関係各位に感謝申し上げます。

結びとして、心や身体にご負担がかかりやすい昨今と思いますが、皆さまご自身の健康にも十分にお気をつけいただき、本日の意義深い表彰を契機に、後に続く医療者の模範として、今後も尚一層のご活躍を賜りますこと、そして来年が明るい年になることを願い、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

令和7年12月2日 全国医学部長病院長会議 会長 相良 博典



## 記者会見・プレスリリース (令和7年4月～令和8年3月)

※本会議ホームページよりダウンロードできます。

<https://ajmc.jp>

◇令和7年4月25日(金) 16:30～

### 第1回定例記者会見

テーマ：医師の働き方改革アンケートの結果報告および大学病院の経営状況について

対応者：相良会長、前田委員長（医師の働き方改革検討委員会）、横山事務局長

概要：令和7年1月～2月に実施した「医師の働き方改革に関するアンケート調査」結果及び令和7年2月～3月に実施した「大学病院の経営に関するアンケート調査」結果について資料を基に説明を行いました。

資料：以下HP参照

- ・令和7年度 第1回定例記者会見資料
- ・出席者一覧



◇令和7年11月28日(金) 17:00～

## 第2回定例記者会見

テーマ：大学病院の実情と現状等について

対応者：相良会長、鶴田副会長、金井委員長（広報委員会）、前田委員長（医師の働き方改革検討委員会）、林座長（経営実態・労働環境WG）、横山事務局長

概要：相良会長より資料を基に説明を行いました。大学病院は物価賃金上昇率に見合った診療報酬の大幅な引き上げが不可欠であることを訴えました。

資料：以下HP参照

- ・令和7年度 第2回定例記者会見資料
- ・記者会見次第



## 昭和医科大学

(私立大学)

昭和医科大学 医学部長 小風 暁

本学の前身である昭和医学専門学校の開学に端を発する医学部は、昭和、平成、そして令和の時代を通じて、多くの医師を社会に送り出してきました。2028年には創立100周年という節目を迎えますが、学是である『至誠一貫』のもと、人間性豊かな医療人の育成という使命は一貫して受け継がれています。

本学部では、卒業時に「プロフェッショナルリズム」「コミュニケーション能力」「患者中心のチーム医療」「専門的実践能力」「社会的貢献」「自己研鑽」「アイデンティティー」の7つの基本的能力の修得を求めています。これらは学士（医学）の学位授与の基盤であり、医師としての出発点を形づくる重要な要素です。なかでも「プロフェッショナルリズム」は、『至誠一貫』の精神を体現する根幹であり、本学の6年間の教育を貫く柱として位置づけられています。知識や技能のみならず、患者に向き合う姿勢や倫理観を涵養し、「病人を中心に据えた医療」を実践できる力を育てています。

教育体制の特色として、医療系総合大学の利点を活かした学部横断的なチーム医療教育が挙げられます。教員が連携して実習を担い、学生は多職種と協働する中で「患者中心のチーム医療」を実践的に学びます。2027年4月に開設される鷺沼キャンパスは、教育・研究機能を兼ね備えた新たな拠点として整備され、こうした連携教育をさらに推進します。

臨床教育では、7つの附属病院、総病床数3,000床を超える診療基盤を背景に、診療参加型臨床実習を実施しています。豊富な症例と専門

性の高い指導体制のもとで「専門的実践能力」を養うとともに、地域医療実習を通じて「社会的貢献」の意義を体得します。

富士吉田キャンパスにおける全寮制教育は本学の特色ある取り組みであり、学部を越えた共同生活を通じて「コミュニケーション能力」とチーム医療の基盤を培います。加えて、新たに整備された実習棟ではアナトマージテーブルの導入により、立体的・視覚的に人体構造を理解する教育環境が整備され、基礎医学教育のさらなる充実が図られています。こうした経験の積み重ねは「アイデンティティー」の形成にもつながると確信しています。

医学・医療の進歩が著しい現代においては、「自己研鑽」の姿勢が不可欠です。本学ではアクティブラーニングを基盤とした教育を展開し、生涯にわたり学び続ける力を養っています。さらに、海外の大学や医療機関での研修機会を通じて国際性を涵養し、広い視野を持つ医療人の育成を目指しています。

創立100周年を目前に控えた本学は、今後も教育・研究環境の充実を図りつつ、『至誠一貫』の精神のもと、時代の要請に応える医療人の育成に努めてまいります。本学で学ぶ学生が、多様なニーズに応え得る良き医療人として羽ばたけるよう、引き続き支援してまいります。



医学部外観

昭和医科大学病院 病院長 相良 博典

昭和医科大学病院の思想的な柱として、「患者さん本位の医療」、「高度な医療の推進」、「医療人の育成」という三つの理念があります。

「患者さん本位の医療」を実践の前提は、安全で安心な医療を提供することです。この要となるのが「チーム医療」です。患者さんには多職種医療者が関わりますが、それぞれに視野も視座も見方も異なります。それぞれの専門性から「最適な」医療を主張するために、見解の違いも生じます。異なる立場の意見を切り捨てることは簡単です。しかし、それらの意見は、その患者さんにとっての安全安心な医療のために考えられている限りにおいて、どれ一つとして無意味なものはないと考えます。見方によって「事実」は異なります。必要なのは、患者さんにとって必要な医療という「真実」です。刻一刻と状況は変化し、時間も限られており、様々な制約がある。そのように難しい場面で、私たちが真実に至らしめるのは、唯一、「チーム医療」だと信じています。多職種が垣根を超えて議論し、平面的な情報が立体的になり、現象に因果が見えてきます。それぞれが専門という顕微鏡で見ながら、全員が一つの望遠鏡を覗き込み、患者さんの望むことを見出す。これがチーム医療の目指すものです。病院長として、あらゆる医療者が立場を超えて本音の対話ができるような組織風土の醸成に力を注いでいきたいと思えます。

チーム医療は、院内で完結するものではありません。地域では生活者として暮らしている患者さんの日常を知り、支えているのは地域の先生方です。病院と地域における立場を超えた対話は、最適かつ安全安心な医療を実現するために、決定的に重要なものです。地域との顔が見える関係が維持できるよう、最大限配慮していきたいと思えます。

「高度な医療の提供」は、大学病院に期待される重要な使命です。医療の進歩とは、日進月歩です。常に、「現在の最適解は、未知なる領域を残した不完全である」との認識のもとに、医療を先進させることが必要です。現在日常的に用いられている医療技術の多くが、かつては、高

度先進医療とされていた医療技術です。つまり、我々の実践は、今後の医療における試金石であり、これからの医療の発展に、欠かせないものです。このような医療を実践するにあたって、十分な安全の確保が最も重要であると認識し、不断の努力を行っていきます。

前述した「患者さん本位の医療」も「高度な医療の提供」も「医療人の育成」無くしてはなし得ません。この点において、「医療人の育成」は、最も重要な使命と考えます。

企業経営における常識として「従業員満足なしに顧客の満足なし」という考え方がありますが、医療界でこのような考え方が重視されることは多くありません。人命を預かる以上、重大な責任が伴う仕事であることは紛れもない事実ですが、医療者の満足感や幸福感がハイライトされることは滅多にありません。働き方改革とは、医療者が仕事にも生活にも満足感や幸福感が得られるように、従来の価値観に縛られた働き方を変革していくことだと考えます。

ワークシェアやタスクシフトは、それらの実現の鍵の一つとなると考えております。必要なことは、現状の延長で考えることではありません。まずは、患者さんのための「チーム医療」を実践することが必要です。そして、「現在の最適解は、改善の余地がある」との認識に基づき、これまでの方法と比較して、Different/New/Betterなことを、具体的に考えていくことが重要です。昭和医科大学病院の誰もが、毎日の、一歩ずつの改善をチームで祝い、互いの成長を喜び、充実した毎日に感謝し、幸せを感じることができる。そのような理想に向かって、愚直に努力していきたいと思えます。よろしくお願いいたします。



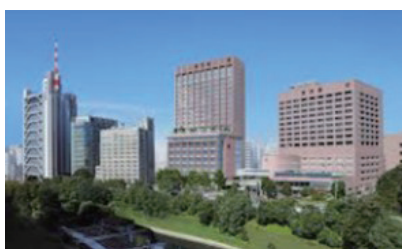
病院外観

# 順天堂大学

(私立大学)

順天堂大学 前医学部長 高橋 和久

本学は1838年（天保9年）に佐藤泰然が江戸・日本橋薬研堀に設立した蘭医学塾「和田塾」をルーツとし、日本の医学教育の先駆として歩んでまいりました。学是である「仁」の精神を基盤に、「教育」「研究」「診療・実践」を一体的に発展させ、現在では9学部8研究科、6附属病院と多様な研究拠点を持つ健康総合大学・大学院大学として成長しています。本郷・お茶の水キャンパス



教育面では、医療専門職としての高い倫理観と豊かな人間性を育むことを重視し、早期からの臨床参加型教育、シミュレーション教育、チーム医療教育など、学生が主体的に学ぶ環境を整備しています。また、複数の学部が連携して学ぶ独自の教育体系により、社会が求める多職種協働型の医療人育成を推進しています。

研究分野では、医学研究科を中心に基礎と臨床の連携を強化し、特色ある医学研究の深化と先端分野への挑戦を進めています。その一例として、本学は文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択され、神経細胞とグリア細胞の学際研究を進める「ニューロン-グリアクロストークセンター順天堂（NGCC順天堂）」を本郷・お茶の水キャンパスに整備しました。これにより、産学官連携の共同研究体制や若手

研究者育成、スタートアップ創出を支える基盤の強化を図っています。また、AMEDの医学系研究支援プログラムにも採択され（名古屋大学、岡山大学と共同）、研究者の研究環境改善に関する先駆的取り組みを実施中です。

診療・医療実践の分野では、合計病床数約3,600床を有する附属病院を中心に高度急性期医療から地域医療、予防医療まで幅広い診療体制を構築し、患者中心の医療を実践しています。本学の診療機能は教育・研究と密接に結びつき、学生の実践力養成や臨床研究の推進にも寄与しています。

また、近年のトピックスとして、地域と共に未来を創る施策として、2025年4月に文京区との協働により「元町ウェルネスパーク」を開設しました。施設内には、予防医学の研究拠点であるスポーツロジセンター、AIを活用した地域連携拠点、医療イノベーション創出を支援するスペースをはじめ、誰もが利用できる順天堂スポーツホール、地域に開かれた食堂やコワーキングスペースなど、多彩な機能が集約されています。さらに、子育て支援施設、地域交流スペース、難病相談・支援センター、防災拠点機能も備え、多世代が安心して集い活動できる地域の新たな基盤として機能しています。



ニューロン-グリア  
クロストークセンター

元町ウェルネスパーク

順天堂大学は、「不断前進」の理念のもと、「教育」「研究」「診療・実践」の質を一層高め、地域社会との連携を深めながら、未来を見据えた大学づくりを進めています。

順天堂大学医学部附属順天堂医院  
 病院長 山路 健

1838年（天保9年）の創設以来、180余年にわたり連綿と受け継がれてきた本学の学是「仁」の精神。当院は、この精神を臨床の最前線で体现すべく、教職員が一丸となって患者さんの立場に立った誠実な医療を実践しています。

特定機能病院として高度急性期医療を担う当院の2024年度実績は、1日平均外来患者数3,746人、入院患者数966人、病床数は計1,051床を有し、国内屈指の規模と稼働を維持しています。最新のロボット支援手術を積極的に導入するなど質の高い医療の提供に努めるとともに、2020年には「臨床研究中核病院」の承認を受けました。オープンイノベーションプログラム「GAUDI」等を通じ、産学官連携による次世代医療技術の開発と社会実装にも取り組んでいます。

現在、多くの大学病院が直面する医療需要の複雑化や働き方改革といった課題に対し、当院では経営戦略の柱として「医療DX」を推進しています。外来診療においては、AIコンシェルジュによる事前カルテ作成や通院支援アプリ、医療費あと払いサービスなどを導入し、外来の滞在時間を大幅に短縮しました。これは患者さんの利便性向上にとどまらず、タスクシフトによる現場スタッフの業務負担軽減や、外来機能の最適化という大きな成果をもたらしています。

さらに、入退院支援におけるDXの中核として、日本IBMと協業し「PFM

(Patient Flow Management) AIマッチングシステム」を構築・運用しています。本システムは、生成AIが電子カルテのデータや患者さんの地理条件を解析し、最適な転院先や介護施設を瞬時に検索・提示する画期的な仕組みです。従来、スタッフが多大な時間を費やしていた情報整理や施設照会業務をAIが代替することで、退院調整業務の20%以上の軽減を見込んでいます。また、タブレットを用いた視覚的な情報共有により、患者さんやご家族とのスムーズな合意形成を促し、より確実に質の高い退院支援を実現しています。

当院が目指すのは、デジタル技術の活用によって生み出された「ゆとり」を、医療従事者が本来注力すべき専門性の高い業務や、患者さんと向き合う「対話の時間」へと還元することです。今後は、このPFMのデジタル基盤を地域包括ケアの中核として位置づけ、地域医師会や介護・福祉機関とのデータ連携をさらに強化してまいります。「仁」の精神を次世代に繋ぎ、他施設の皆様とも手を携えながら、持続可能で質の高い医療提供体制の構築に貢献していく所存です。



順天堂医院外観

# 関西医科大学

(私立大学)

関西医科大学 医学部長 金子 一成

関西医科大学は、1928年に創設された大阪女子高等医学専門学校を前身とし、いくつかの名称変更を経て、現在の共学体制に至っています。医学部は創設の地である大阪府枚方市牧野から守口市を経て、2013年枚方市（京阪枚方市駅近く）に「枚方学舎」が附属病院に隣接して新設されました（写真）。これにより、教育・研究・臨床を統合的に推進する理想の環境が実現し、2018年看護学部、2021年リハビリテーション学部を設置して医療系複合大学に進化しました。

本学は、建学の精神である「慈仁心鏡」を理念に掲げ、創設以来98年間、慈しみとめぐみと愛を規範とする医療人を育成してきました。2028年に創立100周年を迎えるにあたって、医学教育の門戸を広げ、多様な人材による医師養成を目指し、2023年度授業料を大幅に減額しました。加えて入試制度においても、一般入試、学校推薦型入試以外に、奨学金を支給し医師不足診療

科（産婦人科・救急医学科・外科・麻酔科・内科・小児科）に勤務する医師養成を目的とする入試や卓越した能力をもつ特色選抜入試などで、多様な人材を受け入れています。医学教育においては分野別認証適合のカリキュラムを基本とし、国外臨床実習制度、研究医養成コースを設置して、国際的視野と研究マインドの涵養に努めています。2023年からは医学教育改革として、講義型授業の廃止・削減、グループ学習の推進、低学年時からの体験型実習（early exposure）を導入しました。これらの取り組みを通じて、医師としての生涯学習態度、職業像や倫理観の形成を促し、国際的視野と研究マインドをもって、患者に寄り添う医師の養成を強化しています。

研究面では、ゲノム医学、再生医学、医工学、医療データサイエンスに対応した講座・部門・センターを設置し、先進医療を開発する体制を充実させてきました。2022年度に開所した光免疫疫学研究所は、光免疫療法の研究を行う国内唯一の研究所として次世代光免疫療法の開発を目指しています。大学院医学研究科においては、医学修士課程の設置、東南アジア・アフリカ等の医師を対象とした国際大学院の設置、さらにトリノ工科大学、ベネチア大学とのPh.D.ダブルディグリー制度導入など、国際化をすすめ、異分野を融合した学際的研究人材育成にも努めています。これらを取り入れた高度医療人材養成拠点事業が2024年度に採択され、人材育成をさらに加速させています。

2年後に100周年を迎える本学は、特色ある先端的研究の推進と臨床の場での実践を通じて社会貢献を行い、日本をリードする、世界に開かれた医療系複合大学を目指します。



枚方学舎中庭とシンボルツリー

関西医科大学附属病院 病院長 松田 公志

1957年に大阪府守口市で開院した当院は、2006年に枚方市の淀川河川敷に隣接する緑豊かな地に新築移転し、112万人が居住する二次医療圏内唯一の特定機能病院として、797床の病床と高度な医療機能を最大限活用し、52の診療科が地域医療の要として診療を行っています。2024年度の延べ入院患者数は285,726名（1日平均783名）、延べ外来患者数は586,573名（1日平均2,172名）で、手術部には3台の手術支援ロボットを配備し、22の手術室で13,038件の手術を実施しました。

当院の最近のトピックスは、世界水準の専門センターの設置です。2024年11月に開設した国際がん新薬開発センターは、米国のがん新薬Phase 1 治験施設と協力し、世界で最初に新薬を投与する治験を実施するなど、東京の国立がん研究センターとともにわが国のがん新薬開発の拠点として活動しています。また、2025年4月に設置されたスポーツ医学センターでは、国内有数のスポーツ整形外科医を招聘し、プロアスリートから一般市民までを対象に、専門的な診療とトレーニングを提供しています。

当院が現在特に推進しているのは、スマート

病院構想です。AI問診や患者案内ロボットを導入し、さらに、各種AI文書作成システム等を整備するとともに、教職員に電子カルテに接続できるスマートフォンを配布し、院外からも最高レベルのセキュリティを担保して各種指示やオーダーを出せる環境を整えます。

もうひとつ当院の特色は、病院敷地内に24室の患者専用ホテルを持つことです。利用しやすい価格で24時間入室できるこの施設は、緊急患者や遠方からの患者にとって、なくてはならないものになっています。

現在、さらなる機能拡充を目指して、本館隣接地に7階建ての別館を建築中です。別館には、感染対策を完備した病棟のほか、画像診断装置や手術室等が配備されます。これまで課題であった床面積不足が大きく改善されることで、より快適で安全な療養環境を提供し、地域の医療需要にこれまで以上に応えることができると期待しています。

関西医科大学のフラッグシップホスピタルとして、私たちは二次医療圏の枠を超え、西日本、そして日本全国から患者を迎える体制を整えています。光免疫療法をはじめとする最先端医療の開発にも注力し、次の100年に向けて、常に進化し続ける病院でありたいと考えています。



枚方キャンパス

## 近畿大学

(私立大学)

近畿大学 医学部長 西尾 和人

近畿大学医学部は、1974年の開設以来、建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」のもと、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会の要請に応え得る医師・医学研究者の育成に努めてまいりました。高度化・専門化する現代医療においては、確かな知識と技能に加え、多職種と協働し、研究的視点をもって医療の進歩に貢献できる人材の育成がこれまで以上に求められています。本学医学部は、そのような時代の要請に応えるべく、教育・研究・診療のさらなる充実を図っています。



教育棟外観

その大きな節目となったのが、2025年11月のおおさかメディカルキャンパスへの移転です。近畿大学創立100周年、近畿大学病院開院50周年という記念すべき年に、医学部と病院が新たな地に移転し、教育・研究・診療が一体となった新しい拠点として本格的に始動しました。新キャンパスには、図書館、ラーニングコモンズ、テュートリアル室、自習室、講義室、実習室、シミュレーションセンターなどを整備し、学生が主体的に学び、実践的能力を養うことのできる教育環境が大きく向上しました。加えて、課外活



教育棟3階ラーニングコモンズ

動施設も充実し、学修と学生生活の双方を支える基盤が整っています。

また、2026年4月には同キャンパスに看護学部が開設されました。医学部と看護学部が同じ学びの場を共有することは、多職種連携教育を推進するうえで大きな意義を有します。さらに、総合大学である本学の長を生かし、薬学部等との連携も含めた医薬看連携の充実により、将来のチーム医療を支える人材育成を一層推進してまいります。

研究面では、臨床研究の推進を重要な柱の一つと位置づけています。がん領域では、ゲノム解析に基づく個別化医療やがんゲノム医療を推進し、患者一人ひとりに最適な治療の実現を目指しています。循環器・心臓領域では、TAVIや僧帽弁閉鎖不全に対するカテーテル治療など低侵襲先進医療を展開し、脳神経領域では、もやもや病治療や脳血管バイパス術、脳卒中に対する高度医療、さらには神経難病の分子病態解明と治療法開発へとつながる先端研究を進めています。こうした研究と診療の好循環を通じて、本学は地域医療に根ざしながら、我が国の医学・医療の発展に貢献してまいります。

教育面においては、アウトカム基盤型教育を推進し、知識・技能・態度を統合的に修得できる体制を整えてきました。新キャンパスを舞台として、今後はシミュレーション教育、診療参加型臨床実習、研究マインドの涵養、国際性の育成をさらに強化し、次代の医療を担う優れた人材を育成してまいります。

新しい近畿大学医学部は、最先端の教育・研究・診療基盤のもと、人に寄り添う温かな医療人を育てる場として、新たな歩みを進めています。今後も地域社会と日本の医学・医療に貢献し、患者さんに信頼される医師・医学研究者の育成に尽力してまいります。

近畿大学病院 病院長 東田 有智

近畿大学病院は令和7年11月1日に堺市に医学部とともに新築移転しました。許可病床数は800床と旧病院919床からダウンサイズしました。外来部門の機能充実により、入院から外来への移行を進め、これまでどおりの診療機能は維持し、診療科は35診療科で旧病院と同じです。外来1日平均患者数は2,300人、入院1日平均患者数は760人を見込んでいます。

新病院の主な設備、機能は通院治療センター（外来化学療法室）では、27床から46床へ増床。化学療法の入院から外来への移行をさらに進める予定です。手術室は、17室から20室へ増室。ハイブリッド手術室を1室から2室へ増室、他にもロボット手術室を1室から2室へ増室。また、日帰り手術にも対応できるよう、日帰り手術用の回復室等も設置。血管造影撮影室は、5室から6室へ増室。ICUは、10床から24床へ増室。これまでは、サージカルICUがメインだったが、院内発症の重症患者等も受入が可能となります。他に、内視鏡センターも拡大し、検査室は、13室（X-TV室3室含む）とし、回復室

等も充実させ、日帰りのポリペク等も実施できるようにしました。

今後の医療提供体制として、救命救急入院料は3から4に変更予定で、病床数は30床から8床に減少したが、バックベッド20床を含めて、救命救急センターは旧病院とほぼ同じ28床運用となります。小児入院管理料は、現状の実績を踏まえて、28床とし、病床数については減少するが、周辺医療機関との連携による機能分化を進めることで、退院支援を強化し、在院日数の短縮や、入院から外来へのシフトを進め、高度急性期医療が必要な患者の受入体制を充実させます。

大阪狭山市から堺市への移転後も、大阪府、堺市、大阪狭山市等と締結した協定に基づき、堺市医療圏だけでなく、南河内医療圏の基幹病院としての役割を果たしていく所存です。

南河内医療圏・堺市医療圏における役割として、救急・災害医療、新興感染症、がん・小児・周産期等の拠点病院としての役割を果たしていきます。また、堺市医師会、堺市内の病院・開業医ともこれまで以上に連携を進めていきたいと考えています。



近畿大学病院

新病院では、南大阪地域唯一の大学病院として、堺市医療圏、南河内医療圏だけでなく、移転によりアクセスが良くなる泉州医療圏も含めた、南大阪地域全体の高度急性期医療の砦の役割を果たし、医療水準の向上に寄与したいと考えていますので、皆様のご協力をお願いします。

## 事務局だより

### 《令和8年～令和9年度開催予定》

- **令和8年度4月理事会**  
日時 令和8年4月24日(金)  
14:00～16:30  
場所 TKPガーデンシティ  
PREMIUM秋葉原
- **令和8年度定例社員総会**  
日時 令和8年5月29日(金)  
13:00～17:30  
場所 都市センターホテル  
3F コスモス
- **令和8年度11月理事会(予定)**  
日時 令和8年11月27日(金)  
13:00～16:00  
場所 TKPガーデンシティ  
PREMIUM秋葉原
- **令和9年度4月理事会(予定)**  
日時 令和9年4月30日(金)  
13:00～16:30  
場所 未定
- **令和9年度定例社員総会(予定)**  
日時 令和9年5月28日(金)  
13:00～17:30  
場所 都市センターホテル  
3F コスモス

### 《お知らせ》

#### ● 各種変更届について

- **会員、事務担当者の新任・再任・交代や連絡先等の変更**

本会議ホームページ (<https://ajmc.jp>) 会員専用ページよりダウンロードいただき、事務局までメール ([info@ajmc.jp](mailto:info@ajmc.jp)) にてお送りください。

#### ● 医師臨床研修マッチング関連資料について

本会議・会員専用ページよりダウンロードができます。ご意見等がある場合は、事務局までお知らせください。

尚、具体的な内容については下記、医師臨床研修マッチング協議会へご連絡ください。  
医師臨床研修マッチング協議会  
(TEL) 03-5512-8130  
(FAX) 03-3501-6593

#### ● 冊子販売について

ご希望の際は、本会議ホームページ (<https://ajmc.jp>) の会員専用ページにて在庫をご確認の上、申込みタブから、事務局へお申込みください。

『令和7年度(2025)医学教育カリキュラムの現状』・・・定価6,000円  
『令和6年度(2024)医学部・医科大学の白書』・・・定価5,000円

※過去の『医学教育カリキュラムの現状』  
『医学部・医科大学の白書』

もごさいますので、お問い合わせください。

## 《事務局所在地》

- 〒113-0034 東京都文京区湯島 1- 3-11  
お茶の水プラザビル 4 階（会議室 8 階）
- TEL 03-3813-4610
- FAX 03-3813-4660
- （事務局 E-mail）info@ajmc.jp
- （アンケート投稿用 E-mail）quest@ajmc.jp
- （ホームページ）https://ajmc.jp

## 《事務局スタッフ》

事務局長	横山 直樹
参 与 員	櫛山 博
職 員	石川 潤
	河井 麻美
	白井 知美
	廣田真理子

（令和8年3月31日現在）

## 事務局アクセスマップ



発行 令和8年4月

一般社団法人 **全国医学部長病院長会議**

**Association of Japan Medical Colleges (AJMC)**

〈広報委員会〉

委員長 竹谷 健 (島根大学医学部)  
委員 渡辺 敦 (札幌医科大学附属病院)  
委員 上野 義之 (山形大学医学部)  
委員 森 茂久 (埼玉医科大学医学部)  
委員 坂元 亨宇 (国際医療福祉大学医学部)

〈事務局〉

事務局長 横山 直樹  
広報担当 廣田真理子

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-3-11 お茶の水プラザビル4階(会議室8階)

TEL 03-3813-4610 FAX 03-3813-4660

(事務局E-mail) info@ajmc.jp (アンケート投稿用E-mail) quest@ajmc.jp

(ホームページ) <https://ajmc.jp>